

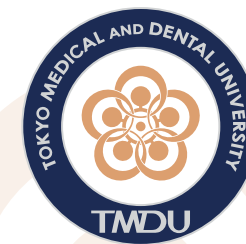


国立大学法人
東京医科歯科大学

統合教育機構入試課
〒113-8510 東京都文京区湯島1-5-45 TEL.03-5803-5083
5084



東京医科歯科大学入学案内サイト
<http://www.tmd.ac.jp/admissions/index.html>



TOKYO
MEDICAL AND DENTAL
UNIVERSITY

TMDU

国立大学法人
東京医科歯科大学
2017年 大学案内



Contents

シンボルマーク・ロゴマーク…………… 1

アドミッション・ポリシー 教育理念…………… 2

沿革…………… 3

組織図…………… 4

学長挨拶…………… 5

医学部長・歯学部学長挨拶…………… 6

医歯学融合教育…………… 7

■医学部

医学科…………… 9

保健衛生学科 看護学専攻……………17

保健衛生学科 検査技術学専攻……………21

■歯学部

歯学科……………25

口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻……………33

口腔保健学科 口腔保健工学専攻……………37

■教養部……………41

■キャンパス概要

国府台地区……………43

湯島地区・駿河台地区……………45

生体材料工学研究所……………47

難治疾患研究所……………48

■キャンパスライフ

図書館……………49

保健管理センター 学生・女性支援センター……………50

学生支援制度……………51

受験、入学から卒業までに必要な経費……………52

学生のある一日……………53

サークル活動……………55

■国際交流

学部学生海外研修奨励賞……………56

医学／医療分野におけるグローバルリーダーを育成する……………59

■入試情報

試験の種類 学部入試方法の変更について……………61

平成 28 年度入学者選抜実施結果……………62

男女別&地方別入学者数……………63

卒業後の進路……………64

募集要項等の請求方法……………65

東京医科歯科大学
シンボルマーク

この図は本学のシンボルマークであり、これには次のような意味が含まれております。

- 東京医科歯科大学の発展の歴史と、その将来へのあるべき姿を、本学の所在地、湯島にちなんで、湯島天神―学問の神―の象徴である梅の花になぞらえて図案化したものです。
- 花の芯に当たる中央の輪は、旧東京高等歯科医学校の校章であり、これを基盤として現在の本学があることを示しております。
- 5 枚の花弁は、医学部、歯学部、教養部、生体材料工学研究所、難治疾患研究所の 5 部局を表し、それらが、がっちりとスクラムを組んで花を咲かせているという本学の姿を表現しています。
- 5 枚の花弁は、将来に向かって無限に躍進するという意図を表すために花弁の外側を肉厚にし、これによって躍動的な感覚を盛り込んでおります。



東京医科歯科大学
ロゴマーク



本学の欧文表記 TOKYO MEDICAL AND DENTAL UNIVERSITY の頭文字をとった TMDU を図案化し、これを本学のロゴマークとします。

これには次のような意味が含まれております。

- 「M」と「D」をつなげることで、医学と歯学の融合を表現しています。
- 太いラインは“自信”や“強さ”を表し、本学の伝統を表現しています。



国立大学法人
東京医科歯科大学

知と癒しの匠を創造し、 人々の幸福に貢献する

本学の歴史は、我が国で最初の官立歯科医師養成機関である東京高等歯科医学校が設立された昭和 3 年 10 月 12 日に始まります。以来、学問と教育の聖地、湯島・昌平坂（しょうへいざか）に建つ本学は、医療系総合大学として「知と癒しの匠」を創造し、東京のこの地から世界へと翼を広げ、人々の健康と社会の福祉に貢献してきました。

「知」とは、知識、技術、自己アイデンティティであり、「癒し」とは、教養、感性、多様性を受け入れるコミュニケーション能力です。これらが融合するところに「匠」への道が拓かれるものと確信しています。

本学の学生には、何の為に自分が存在するのか、ということをはじめ、自分の置かれている状態を正しく理解し（自己アイデンティティを確立し）、全世代・全世界の人々に対応することのできる（多様性を受け入れる）コミュニケーション能力を身につけた「知と癒しの匠」となって国内・国外で活躍して欲しいと願うとともに、そのための支援を本学は惜しみません。

アドミッション・ポリシー

本学は、幅広い教養と豊かな人間性、高い倫理観、自ら考え解決する創造性と開拓力、国際性と指導力を備えた人材を育成するため、優秀な教員と最高の設備、そして世界水準のカリキュラムを用意して、本学とともに「世界に冠たる医療系総合大学」を目指す意気込みのある学生を待っています。

教育理念

1 幅広い教養と豊かな感性を備えた人間性の涵養を目指す

病める人と向き合う医療人は、患者の痛みが分かり、そして患者を取り巻くさまざまな状況をも理解しなければならない。それには豊かな教養と人間への深い洞察力、高い倫理観と説明能力を備えなければならない。

2 自己問題提起、自己問題解決型の創造力豊かな人材を養成する

学業あるいは研究に当たっては、何事も鵜呑みにすることなく、疑問を投げかけ、種々の情報を収集、解析し、自ら解決する能力が求められる。そうしてはじめて、独創的な研究を推進できる人材が育まれる。

3 国際感覚と国際競争力に優れる人材を養成する

研究成果が即座に世界に伝播する現代において、医療の分野でもその情報と時間の共有化が益々進んでいる。このような状況の中で、立ち遅れない、むしろ最先端に行く人材の養成に努める。そのために海外教育研究拠点、海外国際交流協定校への派遣を積極的に推進する。

沿革

昭和3年、日本で初めての国立の歯科医師養成機関として、本学の前身である東京高等歯科医学校創立。

そして昭和19年には、東京医学歯学専門学校と改名し、医学科を設置。

東京医科歯科大学は、その長い歴史の中で数多くの優秀な人材を輩出し、
トップレベルの教育・研究機関として日本の医学・歯学の世界をリードしてきました。

- 昭和3. 10. 12 ● 東京高等歯科医学校を設置
- 昭和19. 4 ● 東京医学歯学専門学校となり医学科を設置
- 昭和21. 8 ● 東京医科歯科大学(旧制) 設置
 - 附属図書館設置
- 昭和24. 6 ● 医学部、歯学部附属病院が医学部、歯学部附属病院とそれぞれ改称
- 昭和26. 4 ● 国立学校設置法により東京医科歯科大学(新制) 設置
 - 医学部医学科、歯学部歯学科を設置
 - 歯科材料研究所を附置
 - 医学部附属厚生女学部を医学部附属看護学校と改称(H3.3 廃止)
 - 歯学部附属歯科衛生士学校を設置(H17.3 廃止)
- 昭和27. 4 ● 歯学部附属歯科技工士学校を設置(H26.3 廃止)
- 昭和30. 4 ● 大学院(医学研究科・歯学研究科)を設置
 - 医学及び歯学進学課程を千葉大学文理学部内に設置(S33.3 廃止)
- 昭和33. 4 ● 医学及び歯学進学課程(国府台分校)を設置
- 昭和37. 4 ● 医学部附属衛生検査技師学校を設置(S48.3 廃止)
- 昭和40. 4 ● 教養部を設置
- 昭和41. 4 ● 歯科材料研究所を医用器材研究所に改称
- 昭和45. 4 ● 保健管理センターを設置
- 昭和47. 4 ● 医学部附属臨床検査技師学校を設置(H3.3 廃止)
- 昭和48. 9 ● 難治疾患研究所を設置
- 平成元. 4 ● 医学部保健衛生学科(看護学専攻・検査技術学専攻)を設置
- 平成5. 4 ● 大学院医学研究科を大学院医学系研究科に改称
 - 大学院医学系研究科(保健衛生学専攻)を設置
- 平成7. 4 ● 大学院医学系研究科保健衛生学専攻(博士)を設置
- 平成11. 4 ● 大学院医歯学総合研究科(3専攻)を設置
 - 医用器材研究所を生体材料工学研究所に改組
- 平成12. 4 ● 大学院医歯学総合研究科(7専攻)を設置
 - 大学院医学系研究科(保健衛生学専攻)を大学院保健衛生学研究科に改称
- 平成13. 4 ● 大学院医歯学総合研究科医歯科学専攻(修士課程)を設置
 - 大学院保健衛生学研究科(2専攻)を設置
- 平成14. 4 ● 医歯学教育システム研究センターを設置(H28.4 改組)
- 平成15. 4 ● 大学院生命情報科学教育部(2専攻)を設置
 - 大学院疾患生命科学研究所を設置(H24.3 廃止)
- 平成16. 4 ● 歯学部口腔保健学科を設置
- 平成21. 4 ● 国際交流センターを設置(H28.4 改組)
- 平成21. 12 ● スチューデントセンターを設置(H25.4 改組)
- 平成22. 4 ● 医歯学融合教育支援センターを設置(H28.4 改組)
- 平成23. 4 ● 歯学部口腔保健学科(口腔保健衛生学専攻・口腔保健工学専攻)を設置
- 平成24. 4 ● 大学院医歯学総合研究科(2専攻)を設置(大学院生命情報科学教育部を統合)
- 平成26. 4 ● 大学院保健衛生学研究科総合保健看護学専攻を看護先進科学専攻に改組
 - 大学院保健衛生学研究科共同災害看護学専攻を設置



東京高等歯科医学校第一
附属医院(昭和6年頃)



本郷通りから正門(昭和9年)



湯島地区全景(昭和27年頃)

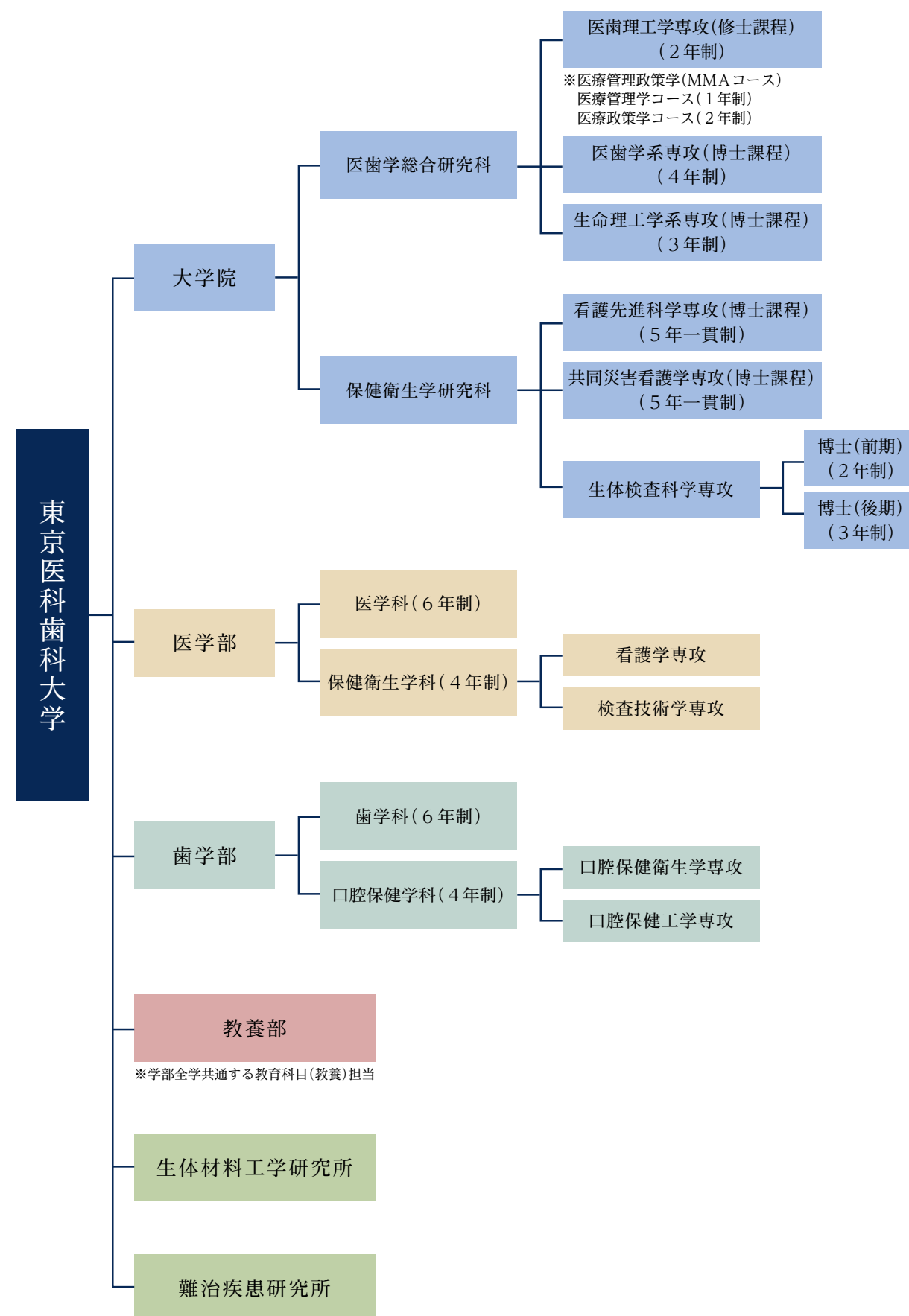


医学部附属病院医科A棟(平成3年)



M&Dタワー(平成21年)

組織図





本学は、医学部医学科、医学部保健衛生学科、歯学部歯学科、歯学部口腔保健学科と教養部、そして、大学院医学総合研究科と大学院保健衛生学研究科、さらに、生体材料工学研究所と難治疾患研究所を有する日本で唯一の医療系総合大学院大学です。

本学では、問題点を見逃さない科学的視点を持った医師、歯科医師、看護師、臨床検査技師、歯科衛生士、歯科技工士の育成、すなわち卓越した医療人養成は勿論のこと、医療・生命科学領域の研究・学問体系の構築を図りながら、国際的に活躍できる卓越した研究者の養成に努め、広く人々や社会に貢献することを目指しています。

本学が学生に求める医療人としての基本は、自己アイデンティティを確たるものにして多様性を受け入れるコミュニケーション能力を身につけることです。

すなわち、相手に敬意を表して話を伺い、相手の心を理解した上で、専門的な助言をできるようになることです。

教 養

本学は総合大学でも一部の大学しか持っていない教養部を残しているのが特徴です。

まず、本学の「知と癒しの匠を創造し、この匠を圏内・国外に展開する」というミッションを果たすには、教養時代から始まる癒し、すなわち教養、感性、多様性を受け入れるコミュニケーション能力の資質を身につけることが医療人としての出発点です。友人、先輩、他大学生との交流、恋愛、読書、映画、音楽・絵画鑑賞など何事にもチャレンジして下さい。この時期では失敗の数が多い程、自分自身になる、人間としての深さが増していきます。

教養から学部

以後、徐々に知、すなわち知識、技術、自己アイデンティティの確立（これは生涯を通して追及するもの）を身につけていって深みのある人間となり、心を理解できる専門家として成長していくのです。

医療人が医療の課題で失敗することは許されません。この失敗とは、医療行為の結果として患者救済に至らなかったということではなく、医療行為の中に他の専門家が首を傾げる行いをしたという意味です。

学長 吉澤 靖之

医学



医学部長
江石 義信

医療人として社会に貢献したいと考えている人たちを歓迎します。
あなたの成長に必要な教員・施設・環境がそろっています。

医学部は、日本及び世界の医学界をリードしています。
我々とともに成長し、活躍できる人材を歓迎します。もちろん勉強ができるだけでなく、患者さんの立場になって考えられる思いやりが無ければなりません。どうぞやさしい気持ちを持ち続けてください。

本学は教育に力を入れています。教員・施設・環境がそろっている中で、しっかり学んでください。海外研修の機会も多く用意しています。積極的に海外に出かけて見聞を広め、世界で活躍できる人材に育ってください。

医学研究においても優秀な教員・研究者が多数います。研究面でもあなたの活躍を期待しています。医学部附属病院では、研究に裏打ちされた最先端の医療を行っています。
知識・技術・思いやりにあふれたすぐれた医療人になってください。しかし、成長するためには乗り越えなければならない壁もあります。常に前向きな気持ちを持って進んでください。

我々は、そんなあなたの成長を全力でサポートします。

歯学



歯学部長
森山 啓司

歯科医学・歯科医療を通じて、あなたの大きな夢をかなえる場所がここにはあります。

歯学部は、歯学科と口腔保健学科（口腔保健衛生学専攻、口腔保健工学専攻）から構成される、国立大学として最も古い歴史を有する総合的歯学教育機関で、2016年分野別QS世界大学ランキングの歯学分野では日本第1位、世界第6位の高評価を獲得しています。歯科医学のフロントランナーとしてふさわしい経験豊かなスタッフ、充実した施設、多彩な授業・実習コンテンツを擁し、基礎から臨床に至るすべての分野を網羅した質の高い教育を提供するとともに、一般医学、保健、福祉の知識を広め、多職種と連携して活動するための技能の涵養にも努めています。

また、海外の学術交流協定校における研修プログラムを通じて、国際感覚を身につけた人材の育成にも取り組んでいます。多様性に富む質の高い教育を実践することで、幅広い知識と高度な技術を身につけ、高い倫理観を持って活動する歯科医学・歯科医療におけるリーダーの養成を目指しています。
大きな夢と志を持った多くの若者が、本学歯学部の門戸を叩いてくれることをぜひ期待しています。

「四大学連合」(東京医科歯科大学・東京外国語大学・東京工業大学・一橋大学)で、さらに広がる「学び」

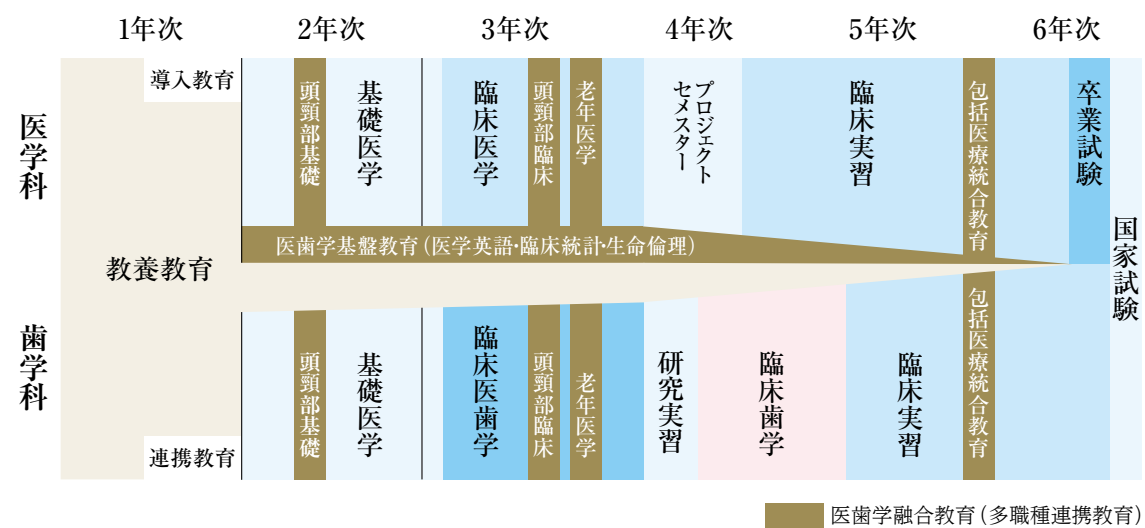
さまざまな分野の学術拠点が集まり、最新情報をタイムリーにキャッチできる大都市・東京には、勉学はもちろん、医療人・国際人としての教養を幅広く身につける上で望ましい環境がそろっています。東京外国語大学・東京工業大学・一橋大学と本学が協力して発足した「四大学連合」は、各大学が独立性を保ちながら密接な連携を図り、「複合領域コースの設定」「編入学の実施」「複数学士号の取得」などを実現して、一大学ではなしえない教育プログラムを提供するものです。豊富な知識と広い視野を有する人材を育て、広く社会に貢献しています。



医歯学融合教育

ますます進む高齢化社会や医療の進歩、複雑化により、これからの医療には医師、歯科医師をはじめとした多職種間での連携・協調のとれた包括的医療の提供が不可欠です。そこで、本学では、医療系総合大学の特性を生かし、他大学に先駆けて、包括的な視野を持つ医療人の育成を目的に、医学科、歯学科の学生が共通して学ぶべき科目を合同で行う医歯学融合教育を平成 23 年度より開始しています。

本学でしか学べない教育



■医歯学基盤教育■

2 年次から 4 年次までの週 1 日に医学、歯学を学ぶ上で基盤となる「医歯学英語」「臨床統計」「生命倫理」を学ぶ医歯学基盤教育を行っています。

このカリキュラムでは、医学／医療の分野において、地球規模で問題となっているトピックや倫理的問題に精通し、世界標準言語である英語で論理的に考え議論／協働できることが重要と考え、臨床統計の概念と背景理論を理解し、臨床データ・情報の厳密な吟味のもとに科学的根拠に基づく患者主体の最良の医療・歯科医療を提供できる医師・歯科医師に不可欠な基盤を学ぶことができます。

■頭頸部ブロック■

2 年次に「頭頸部基礎ブロック」、3 年次に「頭頸部臨床ブロック」をそれぞれ 2 ～ 4 週間集中して受講します。この「頭頸部基礎ブロック」では、両学科の学生が脳を除く首から上の部位に関する正常な構造・機能に関して、両学科の解剖学や生理学の教員の講義を受講し、並行して 2 学科合同の実習を行い、頭頸部への理解を深めています。

また、「頭頸部臨床ブロック」では、頭頸部領域の疾患を理解する上で必要となる眼科、耳鼻咽喉科、頭頸部外科、形成外科、口腔外科の講義を主に受講します。講義の形態として、患者参加型講義等も行われます。

■老年医学ブロック■

こちらは「頭頸部臨床ブロック」と同様に 3 年次に 2 週間集中して行うブロックです。このブロックでは、高齢者の身体・精神諸機能の変化や疾病の特徴を知り、口腔疾患が身体・精神に及ぼす影響を理解し、高齢者の医療・歯科医療の留意点を理解することを目標とします。医学科と歯学科合同の講義が行われるほか、高齢者医療のケーススタディ、高齢者体験実習、口腔ケア実習なども組み合わせて、体系的に学べる仕組みとなっています。

■包括医療統合教育■

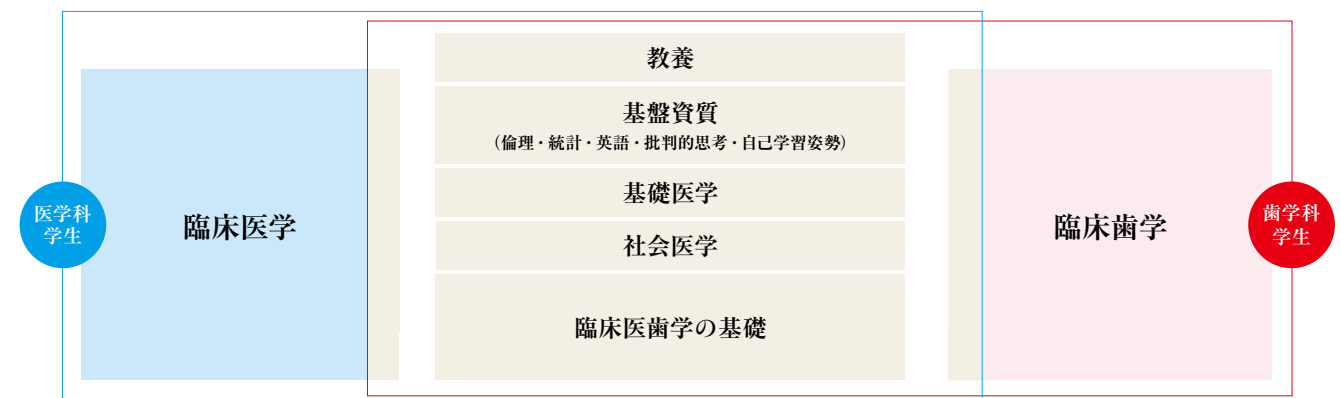
包括医療統合教育は、5 年次から 6 年次にいたる臨床実習の途中で行われるコースです。ここでは医療機関のなかで行われる診断治療に限らず、社会と医療の関わりについても学びます。このうち、いくつかの授業は医学科と歯学科合同で行われます。

このコースのなかに、本学学士課程全学科（専攻）の最終学年学生が全員参加して行う専門職連携教育ワークショップ「チーム医療入門」があります。こちらは平成 24 年度から患者さんの立場で最良な包括的ケアを提供する人材の育成を目的として導入されており、参加した学生は症例に沿った問題解決のために、自身の職種の専門性を発揮しながら、患者中心の最良な医療のために議論・協働を行います。2 日間という短い期間ですが、最初は緊張していた学生も次第に打ち解けて、後半には、白熱した議論を展開し、他職種への理解、チーム医療の構成員として自分が果たすべき役割と連携する必要性を認識しています。



本学全学科・専攻の最終学年学生よりなる混成小グループでの包括医療ケーススタディ

卒業時に習得しておくべき知識・技能・態度



求める学生像

- (1) 医学・医療に深い関心を有する。
- (2) 協調性とコミュニケーション能力に優れている。
- (3) 創造性とチャレンジ精神に富んでいる。
- (4) 高い倫理性を備えている。



最先端の研究と医療の場から、
国際社会で活躍できる医療人を輩出する

医学とは、さまざまな疾患の治療と予防、健康の保持・増進について研究し、その成果を広く医療・福祉に応用するための学問です。

本学科ではこれを踏まえ、動物材料や臨床材料を用いた最先端の基礎的研究を、附属病院では最新の医療機器と最高の知識・技術を持つ医師団による医療が進められています。

本学科では、日々の学びを通して基礎から臨床にわたる広い分野の知識と技術を習得することが求められます。

卒業時に到達すべきレベルは、卒業時コンピテンシー (<http://www.tmd.ac.jp/artis-cms/cms-files/competency.pdf>) に示されています。

卒業後は、医師あるいは医学の教育・研究に関わるさまざまな分野の指導者として、医学・医療の進歩に力を尽くし、国内のみならず国際社会で活躍することが大いに期待されています。

■教育内容■

高齢化が進む社会において、これからの医療はますます重要な分野となります。本学医学科は、将来のこの分野のさまざまな課題に対処できる指導的医療人の育成を目標とします。そのために、自律的な行動力と広い視野を獲得し、高い水準の問題解決能力を開発できるよう、新しいカリキュラムを構築しました。具体的には以下の構成で教育が予定されています。

1 年次は教養部で全学共通科目を学ぶと共に、後期になると週 1 日、湯島地区で行われる医学導入において、早期臨床体験実習等を通じて医療人としての意識を高めます。2 年次から 4 年次にかけても、引き続き教養教育は行われますが、生体と病気のメカニズムについても講義・実習を通じて深く学んでいきます。特に 4 年次にはプロジェクトセメスターと呼ばれる長期の自由選択学習が実施され、自ら興味を持った課題について半年間研究を行い、科学的な考え方、結果のまとめ方を学びます (12p 参照)。また、基礎医学の研究者養成コースも設けられ、希望者には課外の時間を利用して 2 年次より研究を開始することも可能になります。さらに、研究を継続したい学生は、一時大学院に進学し医学博士号を取得した後、復学する MD-PhD コースも用意されています (13p 参照)。

その後は、臨床導入実習で基本的診察技法を習得します。全

国共用試験を経て、医学部附属病院のみならず関連病院、診療所や在宅医療機関を含むさまざまな医療現場で約 1 年半にわたっての診療参加型臨床実習が行われます (12p 参照)。この実習では医療チームの一員として学ぶために院内携帯電話や学生用電子カルテなどが用意され、臨床推論について徹底的に学びます。一方、リーダーとしてのコミュニケーション能力開発のため、チュートリアル等、少人数で討論を行う機会、プレゼンテーション技法の訓練の機会等も豊富に設けられています。また、医療系総合大学の強みを生かした歯学科との医歯学融合教育や保健衛生学科 (看護学専攻・検査技術学専攻)、口腔保健学科 (口腔保健衛生学専攻、口腔保健工学専攻) や、星薬科大学薬学部薬学科、早稲田大学健康福祉科学科とチーム医療について学習する機会も用意されます。

さらに、国際化が進む将来を見据え、英語で医学を学ぶ講義が 1 年次後期から 3 年間にわたって行われるほか、海外研修奨励制度や海外の一流提携大学で学ぶ機会も用意されています (13、14p 参照)。また、全国最大規模のスキルスラボ (臨床手技習得のためのシミュレーション機器を備えた学習室)、国際的に通用する教科書をオンライン上で参照できる e-learning 環境など先進的な学習環境が整えられています。

■カリキュラム構成図



医歯学融合教育 (多職種連携教育)

■授業科目

医学導入	公衆衛生学
人体構造総論	臨床医学導入
細胞生物学	循環器
神経生理導入	呼吸器
生理学	消化器
医歯学基盤教育	体液制御・泌尿器
組織学	内分泌・代謝
人体解剖学	一般外科
頭頸部・基礎	血液・腫瘍
薬理学	神経科学・臨床
生化学	骨・関節・脊椎
分子遺伝学	皮膚・アレルギー・膠原病
神経解剖学	感染・臨床
免疫学	頭頸部・臨床
神経科学・基礎	老年医学
感染・基礎	生殖・発達
東洋医学	救急・麻酔
病理学	自由選択学習
医動物学	臨床導入実習
腫瘍学	臨床実習
法医学	包括医療統合教育
社会医学	研究実践プログラム
衛生学	地域医療学習プログラム

将来の自分を培う魅力あるカリキュラム

医学の基礎を確かなものにするために、問題解決能力、自己学習能力を養い、
医学を学ぶ面白さを実感できます。さらに、治療チームの一員としての役割を担うことで、
患者さんの信頼に応え、医師としての喜びを体験できます。

■医学導入

1 年次後期に週 1 日湯島地区で履修するコースで、医療人としての基盤形成とともに、将来グローバルに活躍する医師・医学研究者としてのキャリアビジョンの創出を目的としています。医学の歴史と今後の展望について学び、国際人としての意識と広い視野を育むための小グループ英語議論に参加し、「受け身型」から「能動的で問題解決型」へと学びのモードを変えるためのさまざまなセッションに参加します。

また、多彩なフィールドで活躍する先輩医師・医学研究者の講演を聞き、実際に彼らと半日をともに過ごし活躍の様子を垣間みて、将来のキャリアビジョンを創出します。さらに、教育・診療・研究施設の見学、先輩である医学科 5 年生の臨床実習の見学、シミュレーターを用いた蘇生実習、看護師や新患の患者さんと半日を過ごす実習などを通して、2 年次から始まる医学専門教育に向け意識を高めます。

■グローバルコミュニケーション教育

グローバル化が進む中で、医師・医学研究者として地球的規模で活躍していくには、その共通言語である英語を使いこなせなければなりません。そこでは、言語としての英語にとどまらず、国際舞台で情報を発信し、意見交換できる力が必須です。本学医学科のグローバルコミュニケーションコースでは、並行して学習する基盤教育、そして医学専門教育と協調・連携させ、学習ステージにあった健康・医学関連トピック記事や症例をもとに、英語を使って情報を収集・共有し、議論して問題解決を図るトレーニングを徹底して行います。



江口 岳志
医学部 医学科 3 年

■能動的な授業で、英語力とグローバルな視点が身につきます

グローバルコミュニケーションの授業では、昨今の医療問題を題材に、英語運用力、医学英語の知識、批判的思考力などを養います。プレゼンテーション、ディスカッション、ディベートを通して、主体的に英語で発言することが求められます。ネイティブスピーカーの先生方と大学生との距離が近い、とても能動的な授業です。また、授業の最後に学生同士でお互いのフィードバックを行って、次の授業につなげるということが特徴だと思います。将来、医師として、文化や価値観の異なる人々と英語で議論して問題点を見いだし、解決しなくてはならない場面が必ずあると思います。この授業では、失敗することを恐れる必要のない環境の中、これらを練習することができます。私も意識の高い友人たちから刺激を受けながら、グローバルな視点を身につけられるよう努力していきたいと考えています。

■統合型教育

診療現場や研究領域における問題解決型思考能力や、生涯学習に必須となる自己学習能力の養成を目的に、これまで 4 つの領域（消化器、腎・体液制御、呼吸器、腫瘍学）で実施していた統合型（ブロック型）教育を、全ての臨床系科目に拡大します。統合型（ブロック型）教育では、従来の臨床科目別の系統講義ではなく、関連する臨床系分野が 1 ～ 4 週間のブロックを形成することで、症候から病態生理を中心に集中的に学習する環境を提供します（全 16 ブロック）。

各ブロックの最初にはそれまでに学んだ基礎医学の知識を賦活化するセッションを組み、基礎及び臨床医学の知識の統合を図ります。これまでの PBL（Problem-Based Learning）チュートリアルのほか、知識の確認・応用とグループ討論を促す TBL（Team-Based Learning）を導入し、症例提示型学習による自己問題提起・解決能力とチーム内でのコミュニケーション能力を養成します。関連講義には基礎医学内容も統合されており、基礎医学領域への関心が誘導されるよう配慮されています。

■統合型教育を学んでの感想

「関連する分野を集中して学べて良かった」。「ブロック形式の授業は、問題発見型学習を学ぶ良い機会になったと思う」。「医学的な情報にアクセスすることやプレゼンテーションすることに慣れることができた」。「医学そのものを学ぶというよりも、学習の仕方を教えてもらった点が、非常に将来的に役に立つと思われる」。皆さんも、ぜひこの統合型教育を体験してみてください。

■自由選択学習（プロジェクトセメスター）

主な講義・試験及び基礎実習を終えた 4 年次に設定されている最長 6 ヶ月のコースです。興味をもった分野について集中的に学ぶことにより、科学的視点を有する医師としての基盤を養成します。本学の諸講座、附属研究所のほか、学外研究機関、さらには国際交流協定校のインベリアルカレッジ（イギリス：ロンドン）オーストラリア国立大学、ソウル大学、チュラロンコン大学（タイ）などにおける履修の機会もあります。全学生の研究成果は、発表会の場においてポスター展示及びプレゼンテーションが行われ、お互いに共有することになります。



山田 浩文
医学部 医学科 5 年

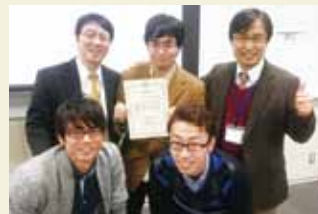
■座学では学べない、スキルと情熱を得られるプロジェクトセメスター

「医学は進歩するもの」とよく言われますが、学問の進歩は沢山の研究成果が集まって初めて成されるものです。本学では学生のうちから研究を行えるカリキュラムが充実しており、その一つとしてプロジェクトセメスターがあります。

プロジェクトセメスター期間中には通常の講義がなく、約 6 ヶ月間研究に専念することができます。学生は海外の研究室も含めて希望の研究室を選択し、そこで一つのテーマを追究し続けます。最後に成果を聴衆の前で発表します。研究室によっては論文を書くことも、学会発表を行うこともあります。

私は肝胆脾外科に所属し、脾神経内分泌腫瘍という疾患の悪性度診断法を研究しました。その過程で、先行研究を確認するための論文の探し方、研究のプランを立てるための論文の読み方と書き方、研究成果を伝えるためのプレゼンの方法などのスキルを先生方から学ばせていただきました。加えて研究内容が形になる過程は、我々に言葉で言い表せない興奮をもたらすことを知りました。

これらのスキルや情熱は座学では学べず、かつ将来どの道に進むにしても必ず必要になるものでしょう。皆さんもプロジェクトセメスターで、「医学の進歩」の一翼を担ってみませんか。



■診療参加型臨床実習

医学科での 4 年間にわたり修得した知識を総動員して、診療チームの一員になり、患者さんの持つ複雑な臨床問題の解決に主体的に参加する実習です。5 年次から 8 つのコア診療科（内科 3、外科 2、ER1、小児科 1、産婦人科 1）を含む、4 週間ずつの 16 ロテーションを通して、臨床医になるために必要な生きた知識、技能、態度を修得します。診療チームの一員としての役割を担うため、院内 PHS 及び学生用電子カルテへのアクセスカードが貸与されます。そして診療チームの一員として入院時の問診、診察を行い、回診では受け持つ患者さんについてプレゼンテーションを行い、方針決定の議論に主体的に参加します。また、主治医によるインフォームドコンセントや手術の立ち会い、またソーシャルワーカーを交えての退院計画立案にも参加することにより、医療全体の流れをつかみます。患者さんの信頼に応え、臨床問題を解決していく過程で、医師としての喜びとともに責任を体験し、プロフェッショナリズムを養います。

本学附属病院のほか、関連病院や診療所、海外の提携大学（オーストラリア国立大学、マヒドン大学（タイ）、国立台湾大学などで実習も行われています。



青柳 奏美
医学部 医学科 6 年

■臨床実習を通じ、知識を理解へ

本学の臨床実習では、学生も診療チームの一員として主体的に診療に参加することができます。研修医をはじめとする先生方の指導のもと、入院した患者さんの問診や身体診察を実際に行い、そこで得られた情報や検査所見をもとに考察をし、カルテに記載し、回診やカンファレンスでプレゼンテーションを行います。自ら考えて診察を行い、それに対して先生方からのフィードバックをしていただくことで、それまでは教科書から得ただけのばらばらだった知識をより実際の診察や治療に近い形で理解することができます。またそうした中で、先生方や同級生に対して発表を行う機会も多くあり、自分の理解したことを相手に伝える能力も自然と身についていくと思います。

このように先生方の丁寧なご指導のもと、5、6 年での診療参加型の臨床実習を経験することで、今後、医療現場で働いていく上で重要な基礎の部分を日々学ばせていただいています。



国際的医療人育成のために

21 世紀の最先端の医療と生命科学に対応できる医療人の育成を目指し、
言語のみならず、品格、知識、態度、技能いずれにおいても、
国際社会に通用する医学のリーダーを育てます。

■インペリアルカレッジとの交換留学プログラム

4 年次中期のプロジェクトセメスターの期間中に、毎年 5 名の学生にイギリスの名門校インペリアルカレッジに留学する機会が与えられます。一流の研究者の指導を受け、さらに世界中から集まって来ている研究室メンバーへのプレゼンテーションやディスカッションを行いながら、半年かけて研究プロジェクトを進めます。またインペリアルカレッジからの学生の受け入れも毎年実施しており、彼らの滞在中に本学学生との活発な交流が行われます。



三宅 亮
医学部 医学科 5 年

■英国における最先端の基礎医学研究

私は、イギリス・ロンドンの Imperial College London にて、National Heart and Lung Institute (NHLI), Single Molecule Biophysics 部門の Liming Ying 教授の下、アルツハイマー病に関する研究に従事しました。

海外でまとまった期間集中して研究プログラムに参加することで、英語でのディスカッションを通じた問題提起に始まり、情報収集、実験手技、結果の解析・考察、そして論文の作成まで、医学研究の一連の過程を学ぶことができるだけでなく、イギリスにおける研究環境を体感し、日本との相違について学ぶという貴重な経験ができました。この交換留学は、将来医学研究に携わりたいと考えている自分にとって、海外で活動することを視野に含め、自分自身のキャリアについて幅広くとらえ直すきっかけとなる、かけがえのない機会となりました。

また、Imperial College London における臨床実習に参加したり、NHS（イギリスの医療制度）について学んだり、医学生としての学びも多数ありました。さらに、国際都市ロンドンにおいてさまざまな文化的・学問的背景を有する現地の学生や研究者との交流を通じて、世界のさまざまな文化・価値観に触れ、国際的な見聞を広げることができるのも本プログラムの大きな魅力です。



■MD-PhD (医学研究者早期育成) コース

優れた医学研究者を育成するための早期医学研究トレーニング特別プログラムです。このコースでは、従来のように医学科卒業後に大学院に進学するのではなく、医学科 4 年次あるいは 5 年次修了後に、医学科の学籍を一時離れ、大学院に進学します。それにより、医学科における基礎的な医学教育を発展させ、体系だった高度な医学研究を経験することを目的としています。大学院在学中に博士論文を完成した者は審査を行い、合格者には博士の学位が授与されます。大学院修了後は医学科 5 年次あるいは 6 年次に戻り、医師免許の取得を目指すことになります。



佐藤 文哉
医学部 医学科 6 年

■さまざまな角度から医学と向き合える魅力的なコース

本コースに進む学生は、学部卒業前に大学院で医学研究に専心し、科学における挙措を実践的に修める機会を得ます。研究志向のある学生にとって、臨床実習や臨床研修、専門医研修よりも早期に研究者としての鍛錬を集中的に行う選択肢と支援体制とが用意されていることはたいへん魅力的だと思います。私自身も、自由選択学習での研究課題を深化・拡大する形で、第五学年で臨床実習と時間外での実験とを経た後に本コースに進学し、神経細胞の形態等に関するタンパク質の一群の構造や動態について研究を続けることができました。

現在、私は第六学年に戻って臨床実習を再開していますが、このように先んじて科学の厨房の匂いのする研究室に流れる時間へ身を置き、知的蓄積の連々たる脈脈と、模索的に対象に当面する際の緊張とに触れることのコララリーとして、復学以降の学びでの本コースならではの深化も期待されます。基礎が臨床かに関わらず、現場で未知の問いや徴(しるし)をより鋭敏に見出し精密に対処するような贅力を養い、卒後に冲天するような羽翼を長ぜしめられるならば、本コースで研究に没頭する三年は——いつとき同輩たちから一歩横に踏み出しても——医学研究を志す者にとって大きな喜びの時間となるでしょう。

■パートナーズ・ハーバード・メディカル・インターナショナルとの医学教育連携

本学は 2002 年よりパートナーズ・ハーバード・メディカル・インターナショナルとの間で、医学教育に関する提携を結んでいます。ハーバード大学医学部は、研究面のみならず、臨床面においても世界トップクラスとの評価を受けており、優れた教育者及び教育システムを有しています。パートナーズ・ハーバード・メディカル・インターナショナルとの提携を通し、グローバルに活躍する医師・医学研究者を輩出するために本学の医学教育の質をさらに向上させるべく積極的に取り組んでいます。その一環として、正規カリキュラムとして「ハーバード大学の学生とともに学ぶ臨床実習」を設定し、毎年 6 年次学生数名(2014 年は 7 名)を派遣してきました。また教員も派遣して研修を行っています。

■学生派遣プログラム

この派遣プログラムは、ハーバード大学医学部関連病院で臨床実習に参加するという大変有意義な機会を提供します。6 年次初めの 8 週間、派遣された学生は 4 週間ごとの計 2 つのローテーションよりなる臨床実習に従事します。ハーバード大学医学部学生と互いに切磋琢磨し合いながら、診療チームの一員として臨床問題解決に主体的に参加します。

派遣のための選考は、5 年次に、英語による志望動機書、英語による小グループ議論、そして面接により行われます。選考された学生は、その後 6 ヶ月半にわたり、英語による病歴聴取、診察、症例プレゼンテーションと議論、記述などの実践的な技能修得のためのトレーニングに従事します。そして最後に、ハーバード大学医学部による電話での英語面接に合格して、晴れてボストンでの実習に参加できます。

今後は、より多くの学生が海外の医療機関で臨床実習を行えるよう、国際性を磨く機会を創出していきます。



2014 年派遣学生



2013 年派遣学生



横村 優
医学部 医学科
平成 26 年度卒業

■世界最高峰のハーバード大学で学び、数多くのインスピレーションを受ける

ハーバード大学医学部関連病院には世界中から優秀な医師や学習意欲の高い学生が集まっており、医療および医学教育の水準は世界トップクラスとも言われています。そのような恵まれた環境に実際に身を置き、米国の医療を肌で感じたことで、数多くの経験を得ることができ、とても有意義な研修となりました。その中でも最も影響を受けたのはハーバード大学の教育制度であり、医学生の臨床実習に対する姿勢です。学生は医療チームの一員として患者を受け持ち、患者の病状を評価し、治療について指導医と議論を重ねます。また、最新の情報を自ら論文を検索して調べたり、他病棟に足を運び、他科の先生に相談するところまで求められます。日本の臨床実習よりも学生に要求するレベルは高く、学生も期待に応えようと切磋琢磨します。彼らの実習に対する姿勢から学ぶものは多く、海外研修で得た経験は卒業後もおおいに活かしています。

本学ではハーバード大学の参加型臨床実習を導入し、留学生のみならず、全在生が本学でもハーバード大学と同等の臨床実習を受けられるように取り組んでいます。今後はこの留学経験を活かして、より良い医療を目指すと共に、日本の医学教育の発展にも貢献したいと考えています。



川村 早弥華
医学部 医学科
平成 26 年度卒業

■ハーバード大ならではの貴重な学びと体験から決意も新たに

ハーバード大学医学部関連病院には、世界各地から医師や医学生が集まっています。スタッフは皆、学生や研修医の教育に慣れており、各人のレベルに合わせて段階的に教えることに長けています。カンファレンスから日々の雑談まで、いたるところに学習の機会がありました。

私は、二つの関連病院の産科麻酔科、心臓麻酔科で 4 週間ずつ実習に従事しました。見学だけでなく硬膜外麻酔や中心静脈カテーテルの挿入など、日本の実習では経験できないような手技も体験することができました。

また、現地で働く日本人の先生方と話す機会にも恵まれました。彼らが何を求めてアメリカで診療するに至ったのか、実際の現場はどのようなものかといった生の声を聞くことができたのは本当に貴重な経験でした。たとえば、言語や文化の壁が想像以上に厚く、人によってはいつまでも馴染めないこと、それでも日本にないものがあるからこそ頑張っていること、アメリカで臨床を続けていくには努力だけでなく縁や運も重要であることなど、いくつもの言葉が印象に残っています。私も、「そのためならどんなことがあっても頑張れる」というくらいに打ち込めるものを必ず見つけると決めました。



講義・実習風景

■ シャドーイング ■



1年次に医学部附属病院の医師、研究者、看護師、及び初診患者さんにつき、診療の現場を見学する。1年間に4回設定。早期から医学、医療の現場を実感させる、本学ならではの体験型実習の一つ。

■ 基礎医学実習 ■



2年次は医学の基礎として人体の構造や機能および病態、病因について学ぶ。2年次の初めに行われる組織学実習では、正常な人体の各組織を頭からつま先まで顕微鏡で観察する。これらを理解することは病態を学ぶ際に必須といえる。人体解剖学実習は、1体につき4名で解剖を行う。献体者に感謝と敬意を表し、実習前には必ず黙祷が捧げられる。

在学生から

MESSAGE FROM A STUDENT

医に必要なコミュニケーション能力

医学科の学生は日々進化する医学について多くの知識を吸収する必要がある、一般の大学生に比べてカリキュラムはタイトかもしれません。しかし、本学の基礎・臨床医学講義や自由選択実習（プロジェクト Semester）、診療参加型臨床実習などでは、最先端の治療・研究をなさっている先生方が丁寧に指導してくださり、私たちの医療への情熱・知的好奇心を支えてくださいます。

また、本学の「知と癒しの匠」の理念に現されているように、医療者には「知識」だけでなく「癒し」となるべきコミュニケーション能力も必要となります。本学は医療系総合大学であり、クラブ活動や一部の授業で歯科医師、看護師、臨床検査技師などの道に進む学生とも普段から密接に交流します。さまざまな視点からの医療の話に耳を傾け、意見を交わす中から、医療に携わる者としてのアイデンティティが確立され、多様性を受け入れるコミュニケーション能力を身につけることができます。

本学の学生生活で多くの先生方や先輩、仲間、後輩に出会えたことは、私が医師の道を歩いていく支えとなると信じています。



川内 結加里
医学部 医学科 6年

■ 基礎医学 / 臨床医学講義 ■



多くの講義は写真や図が豊富に使われたスライドを用いて行われる。講義資料は事前に各自のPCにダウンロードでき、予習・復習に活用される。テレビ会議システムを用いて実習室と講義室を結び、臨場感あふれる講義が行われることもある。

■ クリニカル・クラークシップ ■



5年次から6年次にかけ、1グループ4～5人に分かれ、医学部附属病院の各診療科を4週間ずつ回る。必修の診療科と選択の診療科があり、実際に患者さんを受け持ちながら学ぶ。

卒業生から

MESSAGE FROM A SENIOR

最良の環境でこれからの医療を一緒に担っていきましょう

皆さんは医学生として学ぶべきことは何だと思いますか？ 医学知識の習得、研究への取り組み、患者さんとのコミュニケーション能力など、医師には実に多くのことが求められます。東京医科歯科大学は、2016年、英国の高等教育機関情報誌 Times Higher Education による世界最高的小規模大学ランキングで日本第1位、学生 / 教員比率ランキングで日本第2位、世界第7位に選ばれました。教員1人に対する学生数は3.3人（2013年調査）で、私たち教員は学生一人一人を丁寧にきめ細かく指導しています。コンパクトな大学である点を生かして、学生と教員間、また臨床現場においても周囲にすぐに相談できる体制が整っており、臨床・教育・研究の全ての質が高いのも本学の特徴です。このような他大学にはない最良の環境のもとで、医師として、また人間として大切なことを学んでいくため、5～6年次のクリニカル・クラークシップ期間に学生は驚くほど成長し、医師としての第一歩を踏み出していきます。我々病院スタッフも若く優秀な才能が加わることで診療や研究が日々進歩していくのを実感しています。ぜひこれからの医療を一緒に担っていきましょう。



東京医科歯科大学大学院
医歯学総合研究科
脳神経機能外科学分野 助教
壽美田 一貴
医学部 医学科 平成13年度卒業

- 求める学生像
- (1) 保健医療・看護学・検査技術学に深い関心を持ち、他者への思いやり、責任感、倫理観を備えている。
 - (2) 観察力、科学的思考力、問題解決力、総合判断力を備えている。
 - (3) 人間性が豊かで、継続的に自己啓発し、探究心が旺盛である。



知識と技術を高め、実践と研究を通して看護のエキスパートを養成する

看護実践能力の高い看護師の養成を目的として、体験学習を重視し、自己理解を深めながら専門職にふさわしい感性を磨き、コミュニケーション能力の向上を図ります。

臨地実習では、看護技術の到達点を確認しながら学習できる独自の教育システムを用いて、医学部附属病院などの医療施設や地域との連携をもとに、あらゆる健康レベルの人々に対応した看護を展開します。

卒業研究には3年次から取り組み、ゼミを通して研究を深めます。

また、日本初の看護系大学院大学として、臨床現場のスタッフと実践・研究・教育のさまざまな側面での連携を図るとともに、卒業生をはじめ看護学を発展させていきたいと思っているたくさんの人々の活躍を支援しています。

■教育内容■

看護学専攻では、医療の高度化を支える自然科学・技術並びに生命倫理に関する基礎的な理解を深め、多様化する社会や文化の中で人間が生きることを支える人文科学・社会科学的な素養を併せ持つ看護実践者を養成します。

看護学の教育・研究・実践を基盤に、あらゆる健康レベルの人々に向けた保健医療福祉に関する専門知識を幅広く修め、省察できる能力を養うことで、関連職種との連携・協働を主体的に担うことのできる対人関係能力を備えた看護師の養成と、生涯学習の支援を重視しています。

1年次には、教養部で全学共通科目（人文、社会科学、自然科学、外国語など）を履修し、週1回は専門基礎分野の解剖学及び看護専門科目（基礎看護学、看護心理学、看護の統合と実践）を学びます。

2年次前期には、看護学に関連の深い解剖学、生理学、病態学、薬理学、栄養学などの専門基礎科目を講義と演習によって集中的に学びます。専門共通分野の医療情報学などはこの時期に始まります。2年次で学ぶ看護学専門科目の軸は基礎看護学の講義と演習で、成人、精神、小児、在宅看護学の講義は、2～3年次に

かけて開講されます。母性、老年看護学は3年次前期に学び、保健師資格取得（選択性）に必要な地域看護学関連の科目は主に4年次で学びます。

臨時実習は1年次の基礎看護学実習に始まり、2年次の基礎看護学実習、3年次後期の成人、精神、小児、母性、老年、在宅看護学実習、4年次の地域看護学、看護の統合と実践、総合実習で終わります。臨地実習では援助的な対人関係を確立する能力の育成にも力を入れ、その準備として、2～3年次に自己理解を深める技法や、相談面接技法の訓練、患者会リーダーとの交流などを行います。

4年次には少人数制のゼミで卒業研究に取り組みますが、その準備として、3年次後期より看護学研究方法と理論的背景について学びます。

このほか、国際的な研究や実践を担う力を高めるため、全学的な取り組みと同時に、各学年で外国語の授業を履修できます。さらに、大学院の教育科目の先取り履修制度によって学部生のうちから大学院の単位を修得する機会が新たに導入されました。

■カリキュラム構成図

学 年	カリキュラム内容			
1 年生	専門基礎分野 ■ 解剖学	専門領域分野 ■ 基礎看護学 ■ 看護心理学 ■ 看護の統合と実践	臨地実習 ■ 基礎看護学	全学科共通科目（教養部）
	■ 解剖学 ■ 病理学 ■ 生理学 ■ 生化学 ■ 病理学 ■ 薬理学 他	■ 基礎看護学 ■ 成人看護学 ■ 精神看護学 ■ 小児看護学 ■ 在宅看護学	■ 基礎看護学	
2 年生	専門共通分野 ■ 医療情報学 ■ 保健医療福祉制度論			外国語（TOEFL）
3 年生		■ 母性看護学 ■ 老年看護学	■ 成人看護学 ■ 精神看護学 ■ 小児看護学 ■ 母性看護学 ■ 老年看護学 ■ 在宅看護学	
4 年生	専門共通分野 ■ 保健統計学 ■ 保健医療福祉制度学 ■ 国際保健看護学 他	■ 地域看護学 ■ 看護の統合と実践	■ 地域看護学 ■ 看護の統合と実践 ■ 総合実習Ⅰ・Ⅱ	卒業論文

■授業科目

■専門基礎分野

解剖学Ⅰ・Ⅱ
生理学
生化学
薬理学Ⅰ・Ⅱ
病理学
微生物学
栄養学
疫学
病態学
英文講読Ⅰ・Ⅱ
専門基礎合同演習

■専門共通分野

保健統計学
医療情報学
国際保健看護学
産業保健学
保健医療福祉制度論
健康教育学演習
卒業論文Ⅰ・Ⅱ
実践看護英語
国際保健福祉Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
Learning medical English

■専門領域分野

基礎看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
基礎看護学演習Ⅰ・Ⅱ
基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ
成人看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
成人看護学演習
成人看護学実習
精神看護学
地域精神看護学
精神看護学演習
精神看護学実習
看護心理学
小児看護学Ⅰ・Ⅱ
小児看護学演習Ⅰ・Ⅱ
小児看護学実習
母性看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
母性看護学演習
母性看護学実習
老年看護学
リハビリテーション看護学
老年看護学演習
老年看護学実習
地域保健看護学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
地域保健看護学演習
地域保健看護学実習
在宅看護学Ⅰ・Ⅱ
緩和ケア看護学Ⅰ・Ⅱ
在宅看護学演習
在宅看護学実習
看護の統合と実践Ⅰ・Ⅱ
看護の統合と実践実習Ⅰ・Ⅱ

講義・実習風景

保健医療福祉制度論

看護の専門領域に共通して必要な基礎科目。2 年次開講。医療人として多くの人々の保健医療福祉に携わるために、国民の健康を守る制度や仕組みについて学ぶ。医療保険制度、福祉制度、介護保険制度等のみならず、年金制度、雇用・労災保険、諸外国の保健医療福祉制度についても学習する。



臨地実習

臨地実習は全学年に配置されているが、3 年次の 9 月末から約半年間の臨地実習期間に入る。病院や高齢者施設だけではなく、対象者のご自宅にも訪問して、座学で学んだ医学的知識や看護学の理論や技術を、日々の看護実践の中で展開する。決して楽ではないが、楽しい。そこでの出会いが看護師としての責任の重さを痛感させると同時に、もっと勉強したいと思うようにしてくれるから不思議だ。



実践看護英語

国際的に活躍できる人材を育成する大学全体でのプログラム“グローバル人材養成プログラム”の特別科目。国際組織や海外の医療・教育・研究機関で用いられる看護及び医療専門用語の習得と、国際社会で必要とされるプレゼンテーション能力を高めることを目指し、英語を母語とする教員による講義である。2 年・3 年次において受講生を選抜し、開講している。



地域看護学実習

4 年次には地域看護学実習に出かける。活躍の場はコミュニティである。地域看護学実習で学んだ、病気の人だけでなく、問題だけでもない、疾病の予防やヘルスプロモーションといった、幅広い保健師の活動について自分たちが学んだことを発表し、意見を交換する。地域社会の中でもまれることで、人間として一回りも二回りも成長させてくれる。



在学生から

MESSAGE FROM A STUDENT

一人ひとりへの手厚い教育、互いに高め合える仲間たち

看護学専攻のクラスは少人数制であり、一人ひとりへの手厚い教育と支援のもと、最先端の看護と医療を学ぶことができます。1 年次では教養、2 年次には専門基礎知識、3 年次には実践的な演習を経験し、半年の臨地実習に臨みました。実習では困難の連続でしたが、一緒に励まし合える仲間、そして指導はもちろんのこと精神面でも支えてくださる先生方のおかげで、多くの学びを得ることができました。

また、国際交流がとても盛んで、私は大学のプログラムでラオス、タイに研修に行きました。またトビタテ留学 JAPAN 日本代表プログラム 2 期生としてフィンランドに 1 年間留学しました。学校に通い、病院や老人ホームでの実習や教育実習、ホームステイなど数多くの経験と学びと自信を得ることができました。

私は学びの環境が整い、最高の仲間と先生方に出会える大学は東京医科歯科大学以外にないと自信をもって言えます。



伊藤 陽
医学部 保健衛生学科
看護学専攻 4 年

基礎看護学演習

2 年次通期で看護実践の基盤となる基礎看護技術を学ぶ。看護に共通する安全やコミュニケーション、観察などの基本的看護技術や、清潔、運動、睡眠などの日常生活援助技術、注射や採血などの治療・検査に伴う看護技術を 3～4 人のグループで演習する。失敗しながら試行錯誤を繰り返すが、上手くできたときの達成感や満足感は格別。実習着を着こなし、看護学生としての自覚と覚悟が生まれ、看護師になる夢に近づく。9 月には基礎看護学実習があり、受け持ち患者さんの看護を通して、学んだ成果を思う存分発揮できる。



成人看護学演習

3 年次前期では、既習の病態生理および成人看護学の講義内容を関連づけて、成人期にあり、急性、慢性に経過する健康障害を有する人々への実践的看護技術、看護計画の展開を学ぶ。シミュレーション学習やグループ討議なども活用し、実際の臨床場面を想定した演習を行う。患者や医療者の体験、チーム医療を含め、段階的に知識・技術や思考能力を習得していく。後期に続く本学附属病院を始め、多くの現場で実習をし、看護をすることの意味を見いだしていく。



卒業論文ゼミ

3 年次から卒業論文に取り組む準備として研究法や文献検索の学習を始め、4 年次の 4 月から本格的なゼミを開始する。興味ある分野を選択し、学生ごとに異なるテーマで看護研究に取り組み、12 月にはその成果を卒論発表会で報告する、大学院生とも時間を共にし、ディスカッションを通して研究者の卵となる。



卒業生から

MESSAGE FROM A SENIOR

卒業後も学び続けられる環境で、充実感をもって仕事に取り組む

本学附属病院では、学生から新人教育までを一貫したものと考え、サポートする体制が構築されています。学生と看護師スタッフとの交流会を通じて現場の生の声を聞くことができ、人事交流の目的で看護師スタッフが学生に実技指導を行うこともあります。私が学生の時にはなかったアーツルームという実習場所もあり、学びやすい環境が整っています。

働き始めてからも研修体制がしっかりしており、学びながら働くことができる病院です。日々患者さんが元気に退院していく姿や、スタッフが成長していく姿をみて充実感を覚えながら働いています。



東京医科歯科大学医学部附属病院
看護部 師長
野秋 蘭子
医学部 保健衛生学科
看護学専攻 平成 6 年度卒業

- 求める学生像
- (1) 保健医療・看護学・検査技術学に深い関心を持ち、他者への思いやり、責任感、倫理観を備えている。
 - (2) 観察力、科学的思考力、問題解決力、総合判断力を備えている。
 - (3) 人間性が豊かで、継続的に自己啓発し、探究心が旺盛である。



知識・技術・実践から学問を極め これからの保健医療に貢献する

本専攻は国立大学検査系のパイオニアとして、検査技術学の教育・研究を通して、医学保健医療についての豊かな教養と幅広い専門知識を持つ医療人を育成することを目的としています。

専門的・学術的な視点に立った教育を行い、これからの保健医療に対する社会の要請に応えられる人材を養成しています。

その特徴は、先端医療技術の進展に対応できる学際的視野と研究能力を修得し、医学・保健医療における検査技術の発展に寄与し、新たな世代の指導にあたる研究者・教育者を養成する点にあります。

全国の国立大学法人の先陣として、1989年に発足して以来、本学を巣立った卒業生が、研究・教育機関の指導者・研究者として、あるいは病院の臨床検査技師として活躍し、その将来を期待されています。

■教育内容

- 1) 専門的かつ学術的な視点から教育を行い、臨床検査学の基礎から最先端に至る知識と技術を修得する。
- 2) 検査管理能力を修得する。
- 3) 医療や医学研究に携わる者としての基本的な教養、倫理観、責任ある態度を身につける。
- 4) 新しい臨床検査技術の開発や関連分野における独創的研究の基礎となる、科学的な思考法を身につける。

1年次には主に教養部で全学共通科目を履修しますが、医療人としての高いモチベーションを持って勉学に励んでもらえるように、病院見学や一部の専門科目を学び始めます。2年次の講義は基礎医学、3年次の講義は臨床医学を主体に、学生が無理なく理解できるようカリキュラムに配慮しています。形態・病態制御学系、物質・代謝学系、機能調節・制御学系、病院・病態学系に大別された主要科目では、講義と実習を組み合わせた実践的なカリキュラムとしてあります。さらに、検査管理・社会医学系、総合分野、外国語の科目を加えて、広く臨床検査学について学びます。

2～4年次に多彩な選択科目、必修科目、自由科目を開講している点が本学の特徴で、大学院医歯学総合研究科、難治疾患研究所、生体材

料工学研究所と連携した講義が組まれています。

4年次前期には、卒業研究として学内外のさまざまな関連分野で研究を実施し、研究発表や研究論文の作成を行い、各種の研究分野への学問的探究心を養います。4年次後期には、臨地実習により実際の検査の現場を体験します。また病院・企業・研究所などでのインターンシップも行っています。卒業試験を兼ねる総合講義では、3年次までに学んだ臨床検査の知識を整理し、臨床検査学に関する最新の知識を臨床現場の専門家から学びます。

また、多様化する社会のニーズに対応した教育内容の充実にも力を入れており、さまざまな選択科目から学ぶことができます。グローバル社会の実現に向けた全学の取り組みの一環として、本専攻でも英語教育や海外留学の支援に力を入れています。海外大学との連携・短期研修も積極的に行っており、フィンランドセイナヨキ応用科学大学、ラオス保健科学大学、ネパール KIST 医科大学、タイチュロンコーン大学と交流があります。

- 卒業時に取得できる学位・資格
- 学位：学士（保健学）
- 資格：臨床検査技師国家試験受験資格

■カリキュラム構成図

学 年	カリキュラム内容		
1 年生	全学共通科目(教養部)		
	専門教育・基礎 (講義・実習)		TOEFL
2 年生			
3 年生		専門教育・臨床 (講義・実習)	選択科目・必修科目 インターンシップ
4 年生	卒業研究		
	臨地実習		
	総合講義		

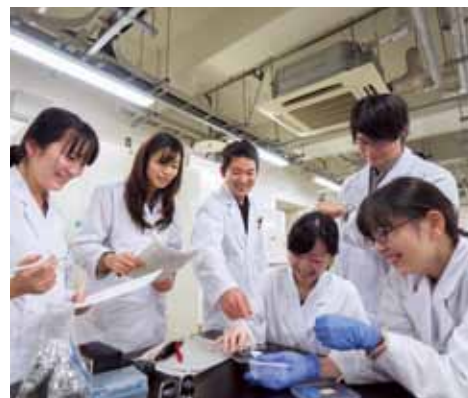
■授業科目

- | | |
|----------------|---------------------------------------|
| 人体構造学講義Ⅰ・Ⅱ | 卒業研究 |
| 人体構造学実習 | Global CommunicationⅠ・Ⅱ |
| 病理検査学講義 | ■選択科目 |
| 病理検査学実習 | 神経科学 |
| 血液検査学講義 | 遺伝学 |
| 血液検査学実習 | 生体医工学 |
| 生化学講義 | パフォーマンス論 |
| 生化学実習 | 分子生物学 |
| 分析化学検査学講義Ⅰ・Ⅱ | 心臓生理学 |
| 分析化学検査学実習 | 癒しの生化学・分子生物学 |
| 医用システム情報学講義Ⅰ・Ⅱ | 電子顕微鏡学 |
| 医用システム情報学実習Ⅰ・Ⅱ | Advanced 生理検査学 |
| 生理検査学講義Ⅰ・Ⅱ | English for Health Care Sciences I,II |
| 生理検査学実習Ⅰ・Ⅱ | ■自由科目 |
| 病原体検査学講義Ⅰ・Ⅱ | 薬理学 |
| 病原体検査学実習Ⅰ・Ⅱ | 短期海外研修 |
| 免疫検査学講義 | Learning medical English |
| 免疫検査学実習 | |
| 遺伝子・染色体検査学講義 | |
| 遺伝子検査学実習 | |
| 検査管理学 | |
| 医学情報処理演習Ⅰ・Ⅱ | |
| 公衆衛生学講義 | |
| 公衆衛生学実習 | |
| 医療概論・関係法規 | |
| 臨床病態学Ⅰ・Ⅱ | |
| 先端医療技術論 | |
| 総合講義 | |
| 臨地実習 | |

講義・実習風景

■分析化学検査学、血液検査学■

尿中成分や血中成分の定性・定量検査の原理・特徴・方法を学ぶ。他の検体の成分分析や化学検査について学ぶ。採血実習ではお互いに被験者になって基本的手技を修得する。



■生理検査学■

人体の機能について学び、さまざまな機器を駆使して実際に患者に接して行う検査について学ぶ。肺の機能を調べる方法、エコーを用いて肝臓、胆嚢、腎臓、脾臓、脾臓、甲状腺、乳腺などを検査する方法、心電図、エコーなどを用いて心臓や血管の形態や機能を検査する方法、脳波や筋電図を利用して神経や筋肉の機能を診断する方法を学ぶ。



■病原体検査学■

微生物学や感染症の診断・治療に用いられる微生物学的検査法を学ぶ。感染症の原因微生物を検体から検出・同定し、薬剤感受性試験を行い、診断治療に役立てる方法を学ぶ。



■病理検査学■

主な疾病・病変による臓器の変化、その成因を理解し、診断のための病理学的検査法を学ぶ。病理診断のための標本を作成し、染色し、顕微鏡で観察する。



■人体構造学■

正常な人体と、それを構成する細胞から器官までの基本的な形態と構造を学ぶ。模型や実物の臓器・骨などを観察、スケッチしながら学ぶ。



■免疫検査学■

免疫機能の異常による病変、その検査の原理・特徴・方法を学ぶ。輸血検査について学ぶ。



■医用システム情報学■

検査診断機器の動作原理や性能が理解できるように、電気・電子回路、通信、情報科学などの基礎を学ぶ。機器の使用、安全管理に関する技術を修得する。



■遺伝子検査学■

遺伝子の構造や疾患との関連性、遺伝子解析、その検査法を学ぶ。ヒトの遺伝子情報の倫理的な扱い、組み替え遺伝子実験について学ぶ。



在学生から

MESSAGE FROM A STUDENT

意欲に満ちた仲間たちと専門性の高い教育に出会える場所

本学は臨床検査学について学べる関東首都圏で唯一の国立大学です。大学生活4年間に於いて学ぶ分野の幅は広く、内容も基礎から専門性の高いものまでとても充実しています。そのため、将来の医学の進歩および医療の現場における幅広いニーズに対応した教育を受けることができます。モチベーションの高い学生が多いため大学院への進学率も高く、臨床検査技師にとどまらずにさまざまな将来の道を選択できることも本学の魅力の1つであると思います。他学科の学生とともに症例を検討する医歯学総合講義は、将来臨床検査技師として働く責任と自覚を覚える場であるだけでなく、それぞれの分野のエキスパートを目指す人たちと関わることで医療人としてのコミュニケーション能力を培い、チーム医療に貢献するための土台作りともなる場です。

本学に進学し、切磋琢磨し合える仲間とともに充実した学生生活を送ってみませんか。



佐々木 郁美
医学部 保健衛生学科
検査技術学専攻 4年

卒業生から

MESSAGE FROM A SENIOR

高度化した医療を支える存在に

臨床検査技師はチーム医療を担う一員として重要な役割を果たしています。一言で検査といっても、血清学的検査、形態検査、輸血検査、微生物検査、病理検査などの検体検査と、心電図、呼吸機能検査、脳波検査、エコー検査などの生理機能検査があり、内容は多岐にわたります。また近年検体採取等業務が新たに加わり、さらに業務範囲が拡大しています。私たちに、検査を迅速かつ正確に行うための知識や技術のほか、検査結果を包括的に判断する力が求められています。本学科は少人数のため、第一線で活躍されている先生方のすぐ近くでこれらを学ぶことができます。アットホームな雰囲気の中、試験や実習を共に乗り越えるクラスメイト、困ったときすぐに相談できる先生や同じ医療の道を志す他学科の友人に囲まれ、充実した大学生活を送ることができました。

他職種と比べあまり馴染みのない職業だとは思いますが、共に臨床検査を盛り上げる後輩が増えることを願っています。



東京大学医学部附属病院
輸血部
廣瀬 有香
医学部 保健衛生学科
検査技術学専攻 平成23年度卒業

求める学生像

- (1) 豊かな人間性と他人に対する思いやりのある人。
- (2) 柔軟で幅広い視野をもっている人。
- (3) 歯科医学・歯科医療に興味をもち、それを十分修得できる基礎学力のある人。
- (4) 問題解決や知識追求に対する意欲をもち、行動力のある人。
- (5) 歯科医療を通して国民の健康維持・増進に貢献したい人。
- (6) 適切な社会性をもち、指導的役割を果たせる積極性のある人。



伝統の裏打ちされた世界に誇る教育環境 世界の歯科医療をリードする人材を育てる

本学科は本年で創立 88 周年をむかえる日本初の国立歯学教育機関としての伝統を誇りとし、常にさらなる発展を目指すことで、2015 年、2016 年 QS*世界大学ランキング歯学分野において、2 年連続国内第 1 位、世界第 6 位の高評価を得ています。

本学科では 6 年間の教育を通じて、国内はもとより、国際的にも活躍できる指導者的歯科医師、歯科研究者の育成を目指します。

そのために、歯科医師養成機関のフロントランナーにふさわしく、経験豊かな教育スタッフ、充実した施設、多彩な教育コンテンツを用意し、歯学の基礎から臨床に至るまでの質の高い教育を提供しています。

一方、歯科医学・医療においても国際化は進展しています。本学では世界に広がる協定校とのネットワークを生かし、海外研修など国際的感覚を身につける教育にも積極的に努めています。

※英国の世界大学評価機関のクアカアレリ・シモンズ (QS) による

教育内容

今、歯科医療は変化しつつあります。

口腔内の環境が全身の疾患と関連しており、さまざまな疾患の予防、治療には口腔の衛生環境、機能を健全に保つことが大切であることがわかってきました。これからの歯科医師には、最先端の歯科医療を行う技術、知識の習得が求められるのはもちろんのこと、社会の高齢化、医療の複雑化が要求する多職種間の連携による包括的医療へ、口腔のスペシャリストとして参加できる知識、能力が要求されています。

本学歯学科は、将来、歯科医学の臨床、研究において指導的医療人となる歯科医師、また、高度な社会的要請に対応できる歯科医師を養成するため、教育に対するさまざまな工夫を行っています。

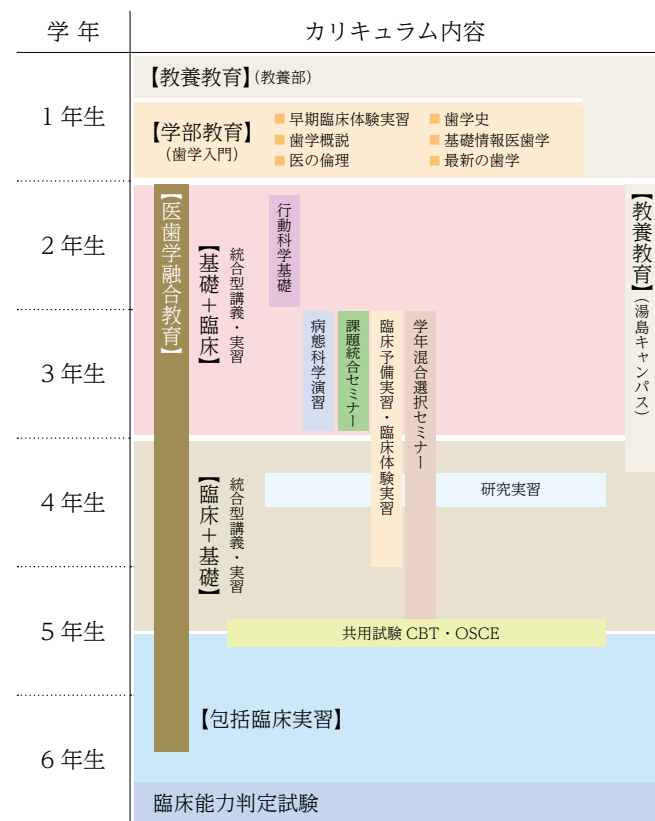
1 年次は教養部で全学共通科目を履修し自己の教養を深めるとともに、後期には湯島地区で学部教育「歯学入門」が実施され、歯科医学と歯科医療の現状を認識し、医療人としての基本的態度を学びます。また、教養部は、医系総合大学である特徴を生かし、学部学科を超えた友人を作る場でもあります。

2 年次以降は湯島地区で教養教育、医歯学融合教育、歯科基礎・歯科臨床専門教育が行われます。専門科目の講義・実習は、表にあるようにモジュールという大きな枠組みの構成単位で履修するシステムです。3 年次までは、解剖学、生理学、生化学、病理学など、人体の構造、機能、病態の基礎について学びます。4 年次からはいよいよ歯科臨床の基礎の学びが始まります。

その間、「医歯学融合教育カリキュラム」で医学科の学生と共に学習するのも医療系総合大学である本学ならではの特色です (7, 8p 参照)。

また、施設での体験学習を通して「人間観」を獲得し、さらに自己理解を深めることを目標とした「行動科学基礎」、口腔領域における疾病のケースシナリオを用いて、解剖学、生理学などの基礎医学の知識を疾病の病態解釈と理解に統合する「病態科学演習」、口腔に関する一つのテーマに沿ってさまざまな側面からの知識の整理を行い、より深い理解を行う「課題統合セミナー」、将来の歯科医師としての自覚

カリキュラム構成図



を高めるために、実際の歯科臨床の現場を体験し、e-learning や動画・模型を用いたシミュレーション教育によって歯科臨床を体験する「臨床予備実習・臨床体験実習」、学年を超えた学生が一緒に興味を抱く医歯学領域のテーマを自ら選び、理解を深める「学年混合選択セミナー」など、自主的学習態度、論理的思考能力を養い、科学的に問題解決の方法を習得するカリキュラムが組まれています。

さらに、本学では海外の多くの大学との学術交流を通じて国際交流が活発に進められており、本学科も学生を積極的に海外研修に派遣し、国際性を養う制度が充実しています。

一方、研究者、研究マインドを持った歯科医師を育てるため、4 年次には「研究実習」期間を設け、歯学科以外の研究機関を含めた基礎あるいは臨床研究分野において長期 (2～4 ヶ月間) の自由研究活動を行います。この期間を外国で研修することも可能です。その後研究を継続したい学生には、4 年次修了後に本学大学院に進学して歯学博士号を取得後、復学して歯科医師となる DDS・PhD コースも選択できます。

そして 5 年前期終了時には、それまでに習った知識の総合的理解力を評価するコンピュータを用いた客観試験である CBT (Computer Based Testing)、診療に参加する学生に必要な基本的診療技能・態度を評価する客観的臨床能力試験である OSCE (Objective Structured Clinical Examination) が実施されます。

この試験に合格すると、5 年次の秋から 6 年次には本学歯学部開設以来の伝統として、診療参加型の「包括臨床実習」が約 1 年 6 ヶ月行われます。学生には日本で最大の 1 日来院外来患者数を誇る歯学部附属病院から学生用患者が配当されます。学生は原則として患者の医療面接から、診断、処置、予後観察、メンテナンスに至る包括的全人的な治療の実践を経験します。患者治療を直接行う経験を通じて倫理観を醸成し、包括的歯科医療の理論と実際を実践体得し歯科医師としての自覚を高めていきます。

授業科目

■全学共通科目 (教養部科目)

■モジュール科目

歯学入門	臨床体験実習
人体の構造と機能	コンピュータシミュレーション実習
医療と造形	歯周病
患者と医療者	咬合育成・発達
行動科学基礎	顎口腔医療
社会と環境	全身と歯科治療
生命の分子の基盤	発展歯科臨床
臨床歯学イントロダクション	心の病と歯科臨床
感染と生体防御	患者さんからみた歯科臨床
臨床予備実習	臨床情報処理
病理	包括臨床実習
予防と健康管理	デンタルエクスターンシップ
生体と薬物	
歯科放射線基礎	■医歯学融合教育科目
病態科学演習	医歯学基盤教育
内科小児科遺伝疾患	グローバル・コミュニケーション
外科系疾患	生命倫理
課題統合セミナー	臨床統計
学年混合選択セミナー	頭頸部基礎
歯科生体材料	頭頸部臨床
研究実習	老年医学
歯と根尖歯周組織の疾患	包括医療統合学習
咬合回復	

歯学科は入学時から良き歯科医師になるため さまざまなプログラムを行っています

■早期臨床体験実習

歯科医としての自覚を早期に持つもらうために、3～4人のグループで歯学部附属病院の各診療科を見学して医療の実感を体感します。

附属病院には高齢者歯科学、インプラント・口腔再生学、疼痛制御学、歯科心身医学、健康推進歯学、スポーツ医歯学などを母体とした診療科・部も設置されており、先進的で高度な歯科臨床の現場が体験できます。



■行動科学基礎

医療者の基本であるプロフェッショナリズムの核となる歯学生の人格の成長を主題としています。医療者という役割を持つ前に一人の人間として「自分を知り、互いに交わり、互いに成長のプロセスを歩む」ことを意識しながら、多くの人と出会いに挑戦します。

他者と関わる中で、自分自身の中に起こってくる考えや感情、その変化を意識し、言葉で表現し、必要に応じて相手に伝える。また、相手の話を聴き、確かめ、相手を理解する体験をし、最終的に人と互いに理解し合う、あるいは「人との出会い」の意味を体験的に理解することを目的としています。

写真は視覚障害の方々の日常を疑似体験し、白杖について教わっている学生の様子です。



■病態科学演習

問題発見・解決型思考力の向上を目指して行われます。

臨床症例の病態を、症状や検査データを元に推論し、主として2年次に学習した解剖学、生理学、生化学、病理学、細菌学、免疫学、薬理学などの基礎医学の知識を用いて論理的に説明できるスキルを身につけるトレーニングを行います。

自学自習を目的に、症例をもとにして少人数の学生がチューターの助言を得ながら、個々の問題解決に必要な事柄を学ぶPBL (Problem based learning) チュートリアルです。



■学年混合選択セミナー

3～5年次の学生と一緒に選択授業を受講します。

広い視野を持ち、柔軟な考え方ができる人材を育成することを狙いとし、歯科とは一見関係が薄いと思われるテーマもあります。

写真は「顔・顔・顔」の授業で、テーマは「化粧」です。



■研究実習

4年次に学生毎に興味ある研究テーマを選択し、学内外の研究室で6月から7週間かけて実際の研究を行ない、その成果を発表します。希望すれば8～9月の夏休み期間も継続でき、また海外機関での実施も可能です。



■包括臨床実習

5年次の秋から6年次には本学歯学部開設以来の伝統として、診療参加型の「包括臨床実習」が約1年6ヶ月行われます。

歯学部附属病院の学生専用の治療室で、あらかじめ了解を得た患者さんを担当し、ベテランの教員の指導のもとで、患者の医療面接から、診断、処置、予後観察、メンテナンスに至る包括的全人的な治療の実践を経験します。また、さまざまな専門診療外来での実習も併せて行います。



徳永 佳紀
歯学部 歯学科
平成27年度卒業

■日々新たな課題に直面し、自ずと学びたくなる環境

本学では5年次の秋から6年次にかけて包括臨床実習が行われます。我が国最大の一日来院患者数を誇る本学の恵まれた環境のもと、学生一人一人に患者さんが配当され、治療計画立案から実際の治療、予後管理に至るまで包括的な治療を行っていきます。この実習は各分野の指導医の先生方による熱心できめ細やかなサポートのもとで行われますが、患者さん一人一人と真剣に向き合い、自分の未熟さを痛感する中で、自然と今何が必要で何をすべきか考え、もっと学びたいと思うようになりました。幅広い知識と技術、コミュニケーションスキルや高い倫理観など将来歯科医師として必要な能力の基礎が身につくのはもちろん、実際の患者さんを前にして教科書だけでは分からなかった難しさ、そして楽しさ、やりがいを感じることができるでしょう。6年間を共にする同期とも助け合い、刺激し合いながら、本学でしか味わえない充実した学生生活がきっと送れると思います。

研究実習モジュールによる海外派遣

歯学科4年次では、6月から約7週間、研究実習のモジュールを実施します。希望者は引き続いて夏休みも実習を行うことが可能で、実習期間は最長で3ヶ月近くとなります。実習開始前に、実習を行うのに必要な一連の講義を受けながら配属先を決定します。配属先は、学内では歯学科の研究室に加え、基礎系研究室を中心に全学的に受け入れをお願いしています。学外配属もあり、海外の研究室での実施も可能です。9月に全員の学生がポスター形式で実習成果を発表し、さらにその後も国内や海外において実習内容を発表する機会を提供しています。このように、研究実習は「科学的探究心をもち、自ら問題を発見し、解決する能力を身につける」という歯学科の教育目標に沿ったモジュールであり、早期研究体験や国際交流経験を可能にしています。

学外コースについては、原則は学生自身が配属先を探すことになっていますが、教員による配属先の紹介などの支援もあります。平成25年度からは毎年海外への配属があり、ロンドン、オックスフォード、マールブルグ、サンフランシスコ、トロント、ソウルへの配属実績があります。

また、実習内容の学外での発表については、5年次や6年次に国内学会や国際学会での学部生セッションにおける発表や、タイのチュラロンコーン大学歯学部および米国カリフォルニア大学サンフランシスコ校歯学部の Research Day での発表実績があります。



松井 友香理
歯学部 歯学科5年

本学では、4年次に自分の興味のある研究室で学べる期間が設けられています。私はこの期間にイギリスにある King's College London の Craniofacial Development & Stem Cell Biology 講座の Dr. Karen Liu の研究室で、舌奇形や口蓋裂を引き起こす因子について2ヶ月半学びました。初めての研究ということもあり不安もありましたが、直属の先生をはじめ、研究室全体で実験の仕方や考え方などを丁寧に指導してくださったので、研究の基礎を学ぶことができました。2ヶ月半という期間は研究を行うには短いですが、研究室のメンバーがどのような研究を行っているのか、研究内容に対してどのように方針をたてて進めていくのかといった過程を学ぶこともでき、非常に良い経験となりました。また、研究室にはさまざまな国からの留学生が所属しているので、研究だけにとどまらずさまざまな話題で意見交換をすることができ、将来を考える上でも非常に良い刺激を受けました。

普段と異なる環境に身を置くことは勇気のいることかもしれませんが、本学ではこのように海外で勉強できる環境が整っているので、ぜひ挑戦してみてください。



見越 葉介
歯学部 歯学科5年

私は4年次の研究実習においてカナダのトロント大学歯学部矯正科、Dr. Siew-Ging Gong の研究室において、頭蓋骨縫合早期癒合症であるクルーゼン症候群のモデルマウスを用いて組織学的、分子生物学的な研究を行いました。トロントは多くの移民による多くの文化を持つカナダ最大の都市で、大学においてもさまざまな国の人々と研究生活を共にし、日本とは違う環境で有意義な研究生活を送ることができました。初めての研究生活に不安もありましたが、わからないことは一から教えていただき、自分自身も精いっぱい頑張りました。また、現地ですきた友人と情報交換をして、大学外での時間でも学ぶことが多い日々でした。

私が東京医科歯科大学を選んだ理由の一つに“世界に近いから”という理由があります。本学は、この研究実習を含め、その他多くのプログラムにおいて海外で勉強する機会が多くあり、そのチャンスを誰もが使えることが強みです。国際的に活躍したい人や世界で歯科を学びたい人は、この制度を活用することで“世界に近づける”と思います。



折笠 紫音
歯学部 歯学科6年

歯学科では4年次に一人一人が興味をもった分野の研究室に配属し、研究を行う実習があります。私は硬組織病態生化学分野の先生方のご指導の下、リソソーム膜タンパク質である LAMP-1 と LAMP-2 が、リソソームの細胞内輸送に与える影響について研究を行いました。大学内で研究発表があり、その後、5年次にはタイ国の Chulalongkorn University の Research Day で研究成果を発表する機会をいただきました。海外で研究発表をするにあたり多くの先生方にサポートをしていただき、出場した Oral Biology 部門では1位となり賞をいただくことができました。

グローバル化が進む現代において、海外で何かをしたという経験は大きく将来に生きてくると思います。今回タイに行った際も、現地の学生や先生方と歯科についてさまざまな話をし、日本との相違点や今まで知らなかったタイの歯科医療の現状などを知ることができ、本当に多くの刺激を受けました。

本学ではこのような海外での研修プログラムが多くあり、国際交流を行う機会が充実しています。そこで得た経験は、将来歯科医師として働く上できっと力になるはずです。



大学の世界展開力強化事業による学生交流

東京医科歯科大学は、平成24年度より文部科学省による「大学の世界展開力強化事業」の助成を受けて、タイ、インドネシア、ベトナム、オーストラリアの大学と学生交流や学術交流を行っています。交流相手大学は、チュラロンコーン大学(タイ)、シーナカリンウィロート大学(タイ)、インドネシア大学(インドネシア)、ホーチミン医科薬科大学(ベトナム)、メルボルン大学(オーストラリア)、シドニー大学(オーストラリア)です。

派遣プログラムでは、これらの大学に本学学生を約2週間派遣し、病院・診療所や大学の見学、授業への参加、地域の保健医療活動の見学などの研修プログラムを、現地の教員の協力を得て実施しています。土日には、現地の学生と交流する機会もたくさんあり、一緒に食事や観光をして仲良くなっています。また、合宿形式で行うグローバルリトリートでは、国籍の異なる学生同士が同じ部屋に宿泊し、寝食を共にしながらワークショップや文化交流を行うので、学生たちの絆が非常に深まります。

受入プログラムでは、交流相手大学の海外学生を受け入れ、本学の教員の指導のもと、基礎・臨床分野での研究体験、病院見学、学生授業への参加、医療関連企業等の見学など、実践的な内容の歯科研修プログラムを提供しています。また、派遣プログラムに参加した学生が中心になって、海外学生に対する日本での生活のサポートや、観光案内などを積極的に行っています。



大沼 啓
歯学部 歯学科6年

5年生の夏休みに、大学の交流プログラムでベトナム研修に参加しました。ホーチミン医科薬科大学や現地のがん病院見学、学生交流など、数々の経験をすることができました。研修期間中に開催された1泊2日のグローバルリトリートでは、ベトナムだけでなく、タイやインドネシアの歯科学生とも楽しく交流することができました。私は3年生の時、インドネシア大学での研修プログラムにも参加し、英語でコミュニケーションを取ることに難しさを体験しました。今回のベトナム研修ではその経験が大いに役立ち、コミュニケーション能力が以前に比べて格段に上達したことを実感しました。これらの海外研修で得た経験や友達はかけがえのないものになっています。海外の人と話をすることにも抵抗がなくなり、臨床実習の始まった今は、本学を訪問した海外の歯科学生に対し自分達の診療室や技工室などを英語で案内する係も引き受けるようになりました。

このように、自分を変えるきっかけとなった学生交流プログラムに参加できたことを心から感謝しています。



五十嵐 七瀬
歯学部 歯学科
平成27年度卒業

私は歯学科6年次の夏休みに、大学の交流プログラムでオーストラリアのシドニー大学での歯科研修プログラムに参加しました。現地では大学の教育施設、関連病院などの見学、オーストラリアの歯科保健事情に関する講義など、さまざまなことを学ぶことができました。歯学部附属病院である Westmead Centre for Oral Health では、現地の歯科学生の臨床実習の様子を見学しました。移民のための通訳や子供の面倒を見るスタッフなど病院が多くのボランティアで成り立っていることなど、新鮮な発見が数多くありました。

今回の研修では、同じ志を持つ海外の歯科学生との交流を通じて、自分が世界の大きな歯科医療ネットワークの一員であることを改めて感じることができました。日本の歯科医療を新たな視点から見て、どのように自分が貢献できるかを考える貴重な機会となりました。サポートしていただいた全ての方々へ心から感謝しています。



講義・実習風景

■ 人体の構造と機能 ■

歯科医は人の「病態」を「正常」にもどすために治療を行います。「病態」がわかるためには「正常」がわからなければいけません。人体の構造と機能では、「構造」と「働き」についての「正常」な状態を学びます。

人体の構造について学ぶのが解剖学です。解剖学実習では、歯科医と関わりの深い頭頸部だけでなく、全身の構造について学びます。また、歯学部独自の科目として、「歯の解剖学」があり、直接の治療の対象となる乳歯、永久歯の形態、構造を学びます（写真左）。

人体の働きについて学ぶのが生理学です。生理学実習では、講義で学んだ神経の基本的な働きや、反射、咀嚼運動、味覚などについて、動物や人を対象に実験を行い、実際に自分の目でそのメカニズムを確かめます（写真右）。また、自ら実験を行うということは将来研究者を育成するという目的も持っています。



■ 歯科生体材料 ■

歯科医療では金属、プラスチック、セラミック等、様々な材料が使われています。口腔内は常に唾液で濡れています。歯科材料が水分を吸って性質が変わったり、何かが唾液に溶け出してアレルギーなどの病気の原因になってはいけません。また上の歯と下の歯が常に噛み合っておつかります。硬い材料でないとすぐに壊れてしましますが、硬すぎると本当の歯の方が壊れてしまいます。また、あまりに硬いといろいろな形に加工することができません。さらに、これらの材料を小さな削り屑が排水に混じったり、空気中に飛散することで周りの環境に何らかの影響をおよぼすことも考えなければいけません。この実習では歯科医療で使用するさまざまな材料の物理化学的特性や、生体や環境への影響、加工方法について学びます。



■ 咬合回復 ■

歯周病などが原因で歯をなくした患者さんには、入れ歯やブリッジ、インプラント等の方法でなくした歯を補って口腔機能と形態の回復を行います。このような学問を補綴（ほてつ）学と呼んでいます。写真は全ての歯をなくした患者さんにいれる入れ歯（全部床義歯）を作成する実習の様子です。



■ 咬合育成・発達 ■

子どもから大人への成長発育にともなって頭蓋、顎顔面は形態が変化します。また、歯は乳歯から永久歯に生え変わります。この時期には様々な原因で咬合異常（歯並びの異常）が生じます。咬合異常は審美的な問題だけでなく、機能的な問題も引き起こします。小児歯科学や矯正学ではその予防、診断、治療に必要な知識と技術を学びます。写真は矯正学の実習の様子です。



■ 歯と根尖歯周組織の疾患 ■

歯科医にとってう蝕（虫歯）の治療はもっとも重要な仕事です。う蝕が小さなうちは削ってプラスチックや金属で埋めて修復します（保存修復学）。この場合、虫歯になっている部分だけを正確に削り取る技術が必要です。う蝕が大きくなると、歯の神経が炎症を起こしたり細菌感染がおこって痛みが生じます。この場合は神経の治療が必要になります（歯内療法学）。神経の治療は骨に埋まった歯根の先端部まで行わなければならないので直接目で確かめることができないので技術が要求されます。このようなう蝕の治療も神経の治療も全て患者さんの口腔内で行われます。そのため、患者さんを模したマネキンを使って、実際の口腔内とほぼ同じ環境で治療のトレーニングを行います。



在学生から

MESSAGE FROM A STUDENT



武井 潤子
歯学部 歯学科 6年

患者さんと向き合い、学べる環境

本学では、各学年における病院見学実習、医歯学融合教育、4年次の研究実習などをはじめとするさまざまなプログラムがありますが、最大の特徴は5年次の後期から約1年間にわたって行われる包括臨床実習だと思っています。この実習では、学生1人が20名ほどの患者さんを担当し、先生方の指導の下、医療面接、口腔内診査、治療計画の立案をし、治療を行っていきます。包括臨床実習までに講義や模型を用いた実習を一通り行いますが、実際の患者さんへの治療は緊張感や難易度が格段に上がり、自分の未熟さを痛感する毎日です。しかし、そこで直面した問題について考え、調べ、練習して乗り越えるたびに、新しい知識や技術が増えていき、少しずつ自分の成長を感じることが出来ます。また、治療が奏功し、感謝の言葉をいただいたときの喜び、達成感は何にも増して大きく、自信にもなります。このように、本学では恵まれた環境の中、実り豊かな学生生活を送れると思います。

卒業生から

MESSAGE FROM A SENIOR



東京医科歯科大学 大学院医歯学総合研究科
部分床義歯補綴学分野 助教
文部科学省 高等教育局医学教育課
技術参与（出向）
犬飼 周佑
歯学部 歯学科 平成13年度卒業

教育を振興する立場から大学をみて

私は本学を卒業後、部分床義歯補綴学分野で大学院生を経たのち、助教として臨床・研究・教育の業務に携わりながら、文部科学省高等教育局医学教育課に技術参与として出向しています。職務としては、主に歯学教育の質向上のための施策に関する業務に就いており、今までの大学での学生教育と歯科医師の養成の経験を生かしながら、社会のために貢献できる高度専門医療人材養成に関する取組にあたっています。

文部科学省での業務を経験し、各大学歯学部の取組状況を知ること、充実した診療参加型臨床実習をはじめとした本学での学部教育が、日本国内のみならず世界と比較しても高いレベルであり、歯科医学及び歯科医療の発展のために指導的役割を果たすことのできる歯科医師・歯科医療技術者・歯学研究者を養成していることを改めて認識しました。今後も皆さまと共に歯科医学の発展に貢献していけることを願っております。

口腔保健衛生学専攻

求める学生像

- (1) 口腔保健に深い関心をもち、人々の健康増進に貢献したい人。
- (2) 豊かな人間性と人々への思いやりのある人。
- (3) 協調性とコミュニケーション能力に優れる人。
- (4) 科学的探究心をもち、自己啓発への意欲がある人。
- (5) 国際交流・国際貢献に意欲のある人。



医療と福祉の両面から口腔保健を学び
人々の健やかな人生の実現をサポートする

本専攻は、保健医療分野はもとより福祉分野とも密接な連携を図るとともに、口腔保健衛生学に関する総合的な科学研究を行い、その成果を広く社会に還元していく学際的特徴を持っています。

本専攻が目指しているのは、高度な専門知識と技術の修得だけではなく、口腔の健康づくりを通じて、人々の健康で幸せな生活をサポートすることができる人材の育成です。

豊かな人間性と科学的な思考力、高い倫理観を持って知識と技術を活かし、医療・保健・福祉などさまざまな場で保健活動が展開できる能力を持つ歯科保健医療従事者の教育と、口腔保健衛生分野の未来を担う研究者の育成を行います。

■教育内容■

本専攻では、4年間で歯科衛生学を中心に保健・医療・福祉の分野にわたる総合的な学習を行います。

1年次は主に教養科目（人文・社会科学、自然科学、外国語、保健体育など）を他学科の学生とともに学ぶほか、専門基礎科目や臨床体験実習などの科目を履修します。

2年次から3年次には、歯科衛生学・口腔保健衛生学の専門基礎科目及び専門科目の講義、また口腔疾患予防や健康教育、臨床口腔保健衛生に関する理論と実際を理解するための講義と基礎実習を行います。社会福祉関連科目も履修するほか、対人職には欠かせないコミュニケーション能力を身につけるための演習もあります。

臨床実習は、3年次後期から本格的に開始されます。歯科衛生に関する基礎系・臨床系科目で学んだ知識と技術を活かして、

実践力を高めます。また、小学校、幼稚園などで健康教育実習を行います。卒業研究では、研究テーマを見つけて、文献の検索等準備を始めます。

4年次には、3年次までに履修した内容をさらに展開して、総合病院、地域、障害者施設、高齢者施設などにおける臨地実習を行い、実社会で活躍するために必要な問題解決能力を培います。また、卒業研究などを通して、科学的思考法と解決法を身につけます。社会福祉士国家試験受験資格取得を希望する場合は、福祉施設での現場実習への準備を進め、3年次春季休業期や4年次夏季休業期に集中的に現場実習を組み込んでいます。

卒業時には、歯科衛生士国家試験受験資格を取得できます。また、必要科目を選択履修した者は、社会福祉士国家試験受験資格が得られます。

■カリキュラム構成図■

学 年	カリキュラム内容	
1 年生	【全学科共通科目】 (教養部)	【専門基礎分野】 ● 人体の構造と機能及び疾病 ● 栄養と代謝 ● 社会保障 ● メディア情報学 【専門分野】 ● 口腔保健と専門職 ● 歯科衛生学総論 ● 公衆衛生学 ● 臨床体験実習
2 年生	【専門基礎分野】 ● 科学英語 ● 人体の構造と機能及び疾病 ● 歯・口腔の構造と機能 ● 疾病の成り立ちと回復過程の促進 【専門分野】 ● 口腔疾患予防学 ● 臨床歯科医学 ● 口腔衛生学 ● 臨床体験実習 ● 食生活教育 ● 生体材料学 ● 臨床検査 ● 歯科薬理・薬剤学 ● チーム医療 ● 口腔機能管理実習 ● 高齢者歯科学 ● 障害者歯科学 ● 歯科診療補助論 ● 臨床口腔保健衛生実習	【統合分野】 ● 社会保障 ● 保健医療サービス ● 臨床医学 ● 科学英語 ● 人体の構造と機能及び疾病 ● 歯・口腔の構造と機能 ● 疾病の成り立ちと回復過程の促進 ● 社会保障 ● 保健医療サービス ● メディア情報学 ● 臨床医学 ● 児童・家庭福祉 ● 現代社会と福祉 ● 司法福祉 ● 障害児・者福祉 ● ソーシャルワーク ● 福祉運営管理 ● 地域福祉 ● 権利擁護 ● 就労支援サービス ● 社会的扶助 ● 福祉計画 ● コミュニティワーク
3 年生	【展開分野】 ● 先端歯科医療学 ● 歯科衛生臨床・臨地応用実習 ● 歯科衛生研究 ● 口腔保健衛生エクスターンシップ ● 口腔保健マネジメント論 ● 保健行動科学 ● 地域口腔保健論 ● 在宅訪問・災害口腔保健医療 ● 健康教育の基礎 ● 健康教育の企画と実践 ● 歯科衛生臨床実習 ● 歯科衛生臨地実習 ● 臨床口腔保健応用学	【統合分野】 ● 社会保障 ● 保健医療サービス ● 臨床医学 ● 科学英語 ● 人体の構造と機能及び疾病 ● 歯・口腔の構造と機能 ● 疾病の成り立ちと回復過程の促進 ● 社会保障 ● 保健医療サービス ● メディア情報学 ● 臨床医学 ● 児童・家庭福祉 ● 現代社会と福祉 ● 司法福祉 ● 障害児・者福祉 ● ソーシャルワーク ● 福祉運営管理 ● 地域福祉 ● 権利擁護 ● 就労支援サービス ● 社会的扶助 ● 福祉計画 ● コミュニティワーク
4 年生		

■授業科目■

- 全学科共通科目
英語
生物学入門
化学基礎
生物学基礎
統計学
情報科学
スポーツ・健康科学
フィットネスマネジメント
教養総合講座
人文社会科学
科学基礎実験
ドイツ語・フランス語・中国語
自由選択科目
- 専門基礎分野
科学英語
人体の構造と機能及び疾病
歯・口腔の構造と機能
疾病の成り立ちと回復過程の促進
社会保障
保健医療サービス
メディア情報学
臨床医学
- 専門分野
口腔保健と専門職
歯科衛生学総論
公衆衛生学
口腔衛生学
臨床歯科医学
歯科薬理・薬剤学
生体材料学
臨床口腔保健応用学
チーム医療
口腔機能管理実習
臨床検査
口腔疾患予防学
健康教育の基礎
健康教育の企画と実践
食生活教育
歯科診療補助論
臨床口腔保健衛生実習
高齢者歯科学
障害者歯科学
臨床体験実習
- 展開分野
先端歯科医療学
歯科衛生臨床・臨地応用実習
歯科衛生研究
口腔保健衛生エクスターンシップ
口腔保健マネジメント論
保健行動科学
地域口腔保健論
在宅訪問・災害口腔保健医療
- 社会福祉科目
児童・家庭福祉
障害児・者福祉
地域福祉
公的扶助
コミュニティーワーク
現代社会と福祉
ソーシャルワーク
権利擁護
社会福祉行政
福祉計画
司法福祉
福祉運営管理
就労支援サービス
- 統合分野
歯科衛生過程
卒業研究
口腔保健と国際協力
歯科衛生学演習
相談援助の基礎と専門職
相談援助実習指導
相談援助演習
社会調査の基礎
- 歯科衛生臨床実習
育成系・維持系・回復系診療科
総合診療科・スペシャルケア外来
(高齢者・障害者・息さわやか)・
口腔ケア外来・中央診療施設
歯科衛生臨地実習
小学校・幼稚園・保育園・中学校
保健センター・障害者センター・
高齢者センター・総合病院・企業
内診療所・歯科関連企業

講義・実習風景

基礎歯学系授業

1、2年次には、基礎系歯科医学の講義と実習を通して、人体、特に歯と口腔の解剖学的構造とその生理学的機能及び代謝のしくみについて学ぶとともに、病理学的変化とその成り立ち、微生物の病原性と生体の防御反応、薬剤の作用と疾病からの回復過程について学ぶ。



PBL チュートリアル

問題発見・解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を養うもので、少人数グループでの授業。シナリオから気になる点や問題点を抽出して、グループごとに学習課題を決め、自学自習した後、発表・討議を行って、内容を確認する。工学専攻や歯学科・医学科学生と合同で行うこともある。グループにはチューターと呼ばれる教員がいるが、見守り役であり講義をすることはしない。



健康教育の企画と実践

健康づくりに欠かせない知識や技能を身につけ、対象とする方々が行動できるようサポートするための健康教育の実践力を養う。園児、小・中学生や高齢者が対象の健康教育を企画立案し、教材を作成して実践・評価する。



在学生から

歯科医療を支えるエキスパートへ

口腔保健学科の特徴は、医療・保健・福祉などさまざまな場で口腔保健活動を展開できる能力を持ち、歯科医療を支えることのできる医療従事者や研究者を目指すことができることです。1年次は教養を学び、2年次からは専門科目、3年次から臨床実習が始まり、4年間を通して授業で学んだことを、臨床実習で身につけ、さまざまな研究から深めることができます。歯科は、医療の一分野ではありますが、全身疾患との関連を図り、医学分野とも連携し、口腔保健学に関する総合的な科学的研究を行うことができることも東京医科歯科大学で学ぶことのできるメリットの一つと考えてよいと思います。また、選択科目で社会福祉士の資格を取ることも可能です。そして、学業だけではなく、授業後は、部活やサークル活動も盛んに行われ、学生生活を充実させて過ごすことができます。



井上 裕子
歯学部 口腔保健学科
口腔保健衛生学専攻 4年

MESSAGE FROM A STUDENT

口腔疾患予防学実習

2年次は模型実習、マネキン実習で、口腔疾患予防に必要な基礎的なスキルを身につける。さらに、学生同士の相互実習を行い、患者対応の基礎訓練を行う。情報収集し、整理・統合した上で、介入計画を立てて実践する流れを身につける。3年次後期から4年通年の歯学部附属病院における臨床実習を通して、実践力を養成する。



臨床実習

歯学部附属病院では、歯科衛生士及び歯科医師の指導を受けて、患者さんへの指導や歯科予防処置などを行う。口腔内の観察、検査、医療面接などから、必要な情報を収集して患者さんにとって必要な介入ができるように計画し、実践・評価する。歯磨きのことばかりではなく、生活習慣や食生活、禁煙に関する指導など幅広い内容を取り上げる。情報交換のため、ケースに関するプレゼンテーションを行い、互いに意見交換して、その精度を高めていく。



社会福祉士選択授業・相談援助演習

医療現場でも、福祉の専門的な知識や技術を持って障害のあることや環境上の理由によって、日常生活に困難を抱えている人々からの福祉に関する相談を受けて、助言や指導、必要な時はその人の関係者（家族・医師など）との連絡や調整などの援助を行うことがある。2年次から行われる社会福祉士選択授業及び相談援助演習では高度化・多様化した福祉医療ニーズに対応でき、生活を支えるための高い実践力を養う。終了後は社会福祉士受験資格が取得できる。



卒業生から

あらゆる視点から、歯科口腔保健の展開を考えられる

私は本学を卒業後、神奈川県に入庁し、現在は厚木保健福祉事務所に配属され働いています。主な業務内容は、自所属の管轄である5つの市町村内の歯科保健全般に関して、専門的かつ技術的な面での支援等を行うことです。本学では、歯科衛生士に必要なことをさまざまな角度から学ぶことができるので、自分自身の視野を限りなく広がられます。特に、医歯学融合教育で、専門職の立場から意見を積極的に述べ、ディスカッションできたことは大変貴重であり、多職種連携が基本となる行政の場で活かしています。また、医療と福祉の両面から歯科口腔保健を考える豊富な機会と、社会背景に適した学びは、卒業後にどの分野に進むにしても、歯科衛生士としての礎となります。今後、加速する超高齢社会のなかでは、歯科衛生士の活躍が多岐にわたって期待され、必要とされます。私も、皆さまと共にその一端を担う歯科衛生士になれることを願っています。



神奈川県厚木保健福祉事務所
三浦 汐美
歯学部 口腔保健学科
口腔保健衛生学専攻
平成 25 年度卒業

MESSAGE FROM A SENIOR

求める学生像

- (1) 口腔保健に強い関心を持ち、人々の健康増進に貢献したい人。
- (2) 豊かな人間性と人々への思いやりのある人。
- (3) 口腔機能の回復に深い関心を持ち、技工技術習得に意欲がある人。
- (4) 科学的探究心を持ち、自己啓発への意欲がある人。
- (5) 国際交流・国際貢献に意欲のある人。



造形と製作加工の技術を匠の技として発展させ、 人々の健康に寄与する技術者、研究者、教育者を育てる

2011年4月に新設された口腔保健工学専攻は

口腔の健康の維持・増進・回復を図り

人々が快適な社会生活を営めるように

医療専門分野はもとより工学分野とも相互に密接な連携を図りつつ

総合的かつ科学的研究を行い

その成果を広く社会に還元する極めて学際的なコースです。

目指すのは、口腔から全身の健康に関する十分な知識と高度な専門的技術を有する

歯科医学・歯科医療の一翼を担う歯科医療技術者です。

卒業後には、口腔保健工学を発展させていくことのできる技術者、研究者、教育者として

国内はもとより国際社会においても、活躍することが期待されています。

教育内容

本専攻では温かく豊かな人間性を有し、口腔保健の立場から、人々の健康で幸せな生活の実現のため、専門的知識及び技術を持って広く社会貢献し、指導的役割を果たすことのできる人材を養成します。歯科技工士教育要項の大綱化に沿った新カリキュラムが2015年度より始まりました。

1年次は教養部で他学科の学生とともに全学共通科目（人文・社会科学、自然科学、外国語など）を履修するとともに、週1回湯島地区で基礎分野、専門基礎分野の科目を履修します。「口腔保健工学概論」では口腔保健衛生学専攻の学生と一緒に問題解決型学習（PBL）を行い口腔保健専門職の基礎を学びます。また、「造形美術概論実習」および「加工技術基礎」では口腔保健工学の基本的技術力を培います。

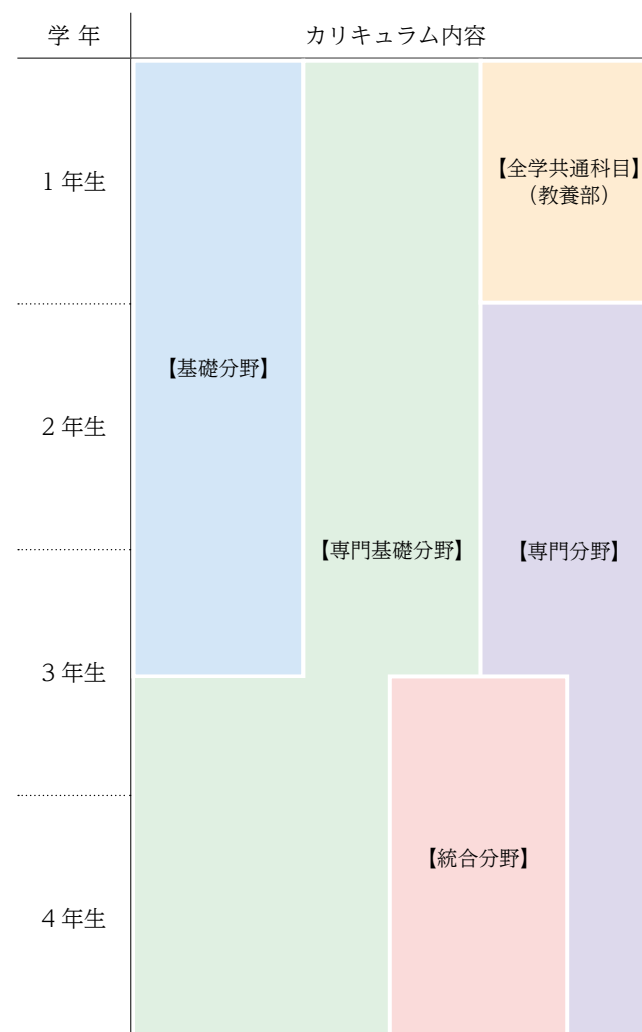
2年次以降は湯島地区で基礎分野、専門基礎分野、専門分野などの科目を学びます。2年次の「人体の構造と機能Ⅱ」では口腔と全身の構造や生命現象のしくみについて学びます。「口腔保健理工学」では歯科技工で用いる材料器械の原理や扱い方について学び、さまざまな材料の物性の測定を行います。「ヘルスプロモーション」ではPBLと講義を併用しながら口腔保健の一翼を担う専門家としての役割と口腔と全身の健康について学びます。「全部床義歯工学」、「部分床義歯工学」、「歯冠修復工学」などでは、歯科補綴

装置の製作方法を学び、実際に製作します。また、「グローバル口腔保健工学実習」では、英語でのプレゼンテーション作成を行い、後期に台湾の大学で発表し、歯の彫刻コンテストに参加し、国際交流を行います（40p参照）。日本の歯科医療を理解するとともに国際社会における歯科医療を知り、国際社会において貢献できる力を養います。

3年次の「審美修復工学」では最新の歯科用CAD/CAMシステムを用いて補綴装置の製作理論を学び、実際に製作します。「インプラント工学実習」では、歯科用インプラントの埋入から補綴装置の製作を行い、「顎補綴工学」では顎口腔、顔面の欠損に用いる治療用装置の構造と製作法を学びます。

4年次には今まで学んだことをもとに、実際の患者さんの補綴装置を製作する「再建工学包括臨床実習」を行います。歯学部附属病院には多くの専門外来があり、通常の補綴装置からインプラント上部構造や顎補綴装置まで学ぶ機会があり、充実した体験ができます。「CAD/CAMシステム工学」では1人1台のCADソフトを用いて実習を行います。卒業に向けた集大成として、未解決の問題について自ら研究テーマを立案し、学科を越えて行う「卒業研究」を実施するとともに、今まで学んだ技術を基に高度で先進的な技法を用いる「卒業製作」を行います。

カリキュラム構成図



授業科目

- 全学共通科目
 - 人文社会科学
 - 外国語
 - 情報科学
 - 統計学
 - 化学基礎
 - 生物学基礎
 - 生物学入門
 - 科学基礎実験・演習
 - スポーツ・健康科学
 - フィットネスマネジメント
 - 教養総合講座
 - 自由選択科目
- 基礎分野
 - 口腔保健工学概論
 - 科学英語
 - ヘルスプロモーション
 - メディア情報学基礎
 - コミュニケーション学
 - 造形美術概論実習
 - グローバル口腔保健工学実習
- 専門基礎分野
 - 歯科技工士と法律
 - 感染予防
 - 口腔保健工学管理学
 - 早期臨床体験実習
 - 口腔外科学
 - う蝕と歯周病
 - 高齢者歯科工学
 - 口腔保健工学特論
- 専門分野
 - 顎補綴工学
 - スポーツ歯科工学
 - オーラルアプライアンス工学
 - 全部床義歯工学
 - 部分床義歯工学
 - 歯冠修復工学
 - 審美修復工学
 - CAD/CAM システム工学実習
 - インプラント工学実習
 - 小児歯科工学
 - 発育口腔工学
 - 矯正歯科工学
 - 再建工学包括臨床実習
- 統合分野
 - 医療倫理
 - 卒業研究
 - 卒業製作
 - 口腔保健工学エクスターンシップ
- 人体の構造と機能
 - 画像解析学
 - 歯の形態実習
 - 咬合学
 - 臨床咬合学
 - 加工技術基礎
 - 口腔機材開発工学
 - 口腔保健理工学
 - 精密铸造学演習
 - プロセスデバイス工学

講義・実習風景

口腔保健理工学実習

口腔保健理工学実習では、圧延加工、旋盤加工などを通じて加工技術の基礎を学び、実習を通して歯科において用いられるさまざまな材料の歯科理工学的性質や歯科用合金の精密鑄造の理論と操作工程についての知識の理解を深めます。



造形美術概論実習・歯の形態実習

造形美術概論実習ではスケッチや模写、粘土で作品を製作し、形態を客観的に見る力を養います。歯の形態実習では、歯の模刻を行い、適切な歯の形態を再現する能力を身につけます。



全部床義歯・部分床義歯・顎補綴工学実習

全部床義歯工学実習では、すべての歯が欠損した患者に対する全部床義歯の製作を、部分床義歯工学実習では、部分的に歯が欠損した患者に対するレジン床や金属床の部分床義歯の製作を行い、歯科技工士として必要な補綴装置の製作技術と知識を修得します。また、咬合器やフェイスボウなどの使用についての知識と技術を修得します。顎補綴工学実習では、外傷や先天性疾患、腫瘍などにより生じた欠損に対する顎顔面補綴装置の製作法と必要な知識を学び、上顎欠損に対する顎義歯の製作と顔面欠損に対する義眼と眼窩エピテーゼの製作を行います。



在学生から

少人数の良さを生かした充実した学生生活

工学専攻は基礎医学や歯科医療の概要、先端の材料学などの知識を学べる上に、実習で歯科技工の技術が身につけられる日本で数少ない専攻です。本専攻の魅力は、少人数でアットホームな雰囲気があることです。先生方との距離が近く、学生一人ひとり丁寧に指導していただけることがとても気に入っています。

また、本専攻では国際交流が盛んです。2 年次後期には学生全員に海外研修の機会が与えられ、さらに毎年海外から研修に来た学生を学生自らおもてなしするなど貴重な経験ができます。

1 年次の他学科との教養授業、2 年次の専門的な基礎実習を終え、3 年次ではより専門的な知識、技術を身につけていきます。最新技術の CAD/CAM や 3D プリンターを学ぶ環境も整っており、4 年次の臨床実習に向けて学んでいます。レベルの高い実習も多く大変だと感じることもありますが、工学専攻だからこそできるさまざまな経験を心得、充実した学生生活を送っています。



豊田 真奈
歯学部 口腔保健学科
口腔保健工学専攻 3 年

MESSAGE FROM A STUDENT

■ 歯冠修復工学実習・CAD/CAM システム工学実習 ■

歯冠修復工学実習では、クラウンやブリッジと呼ばれる金属製やプラスチック製の補綴装置の製作法と必要な知識を学びます。

また、歯科用 CAD/CAM システムを用いた補綴装置の製作では、1 人 1 台の CAD ソフトを用いて装置を設計し、CAM ソフトを用いて削り出し加工を行います。4 年生が 3 年生を指導したり、歯学科 6 年生との合同実習で CAD/CAM 冠の製作を行います。また、審美的なセラミック冠などを製作します。



■ グローバル口腔保健工学実習 ■

日本の歯科事情や日本、大学についての紹介をテーマとして、英語でプレゼンテーションを作成します。ネイティブ教員から英語で作成法や発音練習、発表の指導を受け、台湾の大学に研修に行き、台湾の大学生に対して英語でプレゼンテーションを行います。



■ 国際交流 ■

2 年次の 11 月に海外研修で台湾の大学を訪問し、3 月には台湾からの学生を受け入れ、一緒に英語での講義や実習、カービングコンテストを開催し、学生の国際交流を行っています。日本の歯科医療を理解するとともに国際社会における歯科医療を知り、国際社会において貢献できるように視野を広げています。



卒業生から

歯科医療技術者として質の高い医療を提供するために

工学専攻では、さまざまな分野で活躍できる人材を育成するため、歯科技工の専門知識や技術のほか、コミュニケーション能力や国際感覚を養うことにも重点が置かれています。2 年全員で参加する海外研修は、先方の学生との交流を楽しみ、英語学習への意欲を高める機会になっています。4 年次の医歯学融合教育では他学科学生との意見交換を通して多職種間の相互理解を深め、医療における自分の役割を改めて考えることができ、また臨床実習では患者さんの口腔内補綴装置の製作を通して、技術のみならず歯科医師との意思疎通の重要性を学びました。

私は、現在大学病院の歯科技工室に勤務していますが、医療に携わる全員の連携によって患者さんに満足していただける質の高い歯科医療が提供されること、そして、日々自ら進歩しなければならないということを実感しています。大学で学んだことを活かし、歯科医療技術者としてこれからますます高みを目指していきたいと考えています。



昭和大学歯科病院歯科技工室
八巻 知里
歯学部 口腔保健学科
口腔保健工学専攻 平成 26 年度卒業

MESSAGE FROM A SENIOR

理念と教育目標

世界に通用する医療人になるためには、専門教育で獲得する知や技に加えて、さまざまな文化や多様な世界を理解できる教養と、他者を理解するための人間としての力が求められています。教養部では、そのためには教養教育と専門教育を学ぶための基礎教育を並行して行うことが必要だと考え、以下の4つの力を学生に獲得させる教育を目指しています。

- (1) 市民社会の一員として、自己と他者を理解するための幅広い教養と感性
- (2) 科学的に考え、理解し、自ら問題を見つけ継続して学ぶ力
- (3) 国際的な医療人として活躍するために必要なコミュニケーションの能力
- (4) 専門教育に必要な基礎学力や思考力、技術



医療人としての教養、 人間としての力を身につける

本学での学生生活の最初の入口、それが教養部です。

現在、教養部を設置している国立大学法人は本学のみです。

教養部は、「大学は、市民社会を構成する一員としての教養を身につける場である」

という大学教育の原点に立ち返り、医療人に求められる教養と

人間としての力を身につけるための教育を行っています。

学部・学科の別なく全学生がともに学ぶことにより、多様な考え方に触れ、

専門の領域を越えて将来に繋がるかけがえのない友人を得ることができるのも、教養部ならではの特徴です。

緑豊かな国府台キャンパスで全学科の学生が1年間を過ごします。

また、専門科目の履修と並行して、人間への理解をいっそう深められるよう

医学部医学科、歯学部歯学科を対象に、2年次以降の湯島キャンパスでも、

教養部が担当する主題別選択科目や、人文・社会科学の少人数セミナーが開講されます。

教育内容

教養部では、左に掲げた教育理念・教育目標に沿って、必修科目と選択科目を配置しています。

人文社会系科目：文学、哲学、歴史学、法学、社会学等が開講されています。先人の優れた知見に触れるとともに、学問のさまざまな方法論に接する機会です。ここで身につけた知識や考え方を、2年次以降の「主題別選択科目」や「主題別人文社会科学セミナー」でさらに深化させます。

自然科学系科目：数学、物理学、化学、生物学は、自然の理解に必要であると同時に、専門教育の基礎学力としても重要です。講義と実習で、知識に加えてそのための思考力や技術も身につけます。物理学、化学、生物学を高等学校で履修しなかった学生のためには、入門コースを設けています。

外国語系科目：言語はコミュニケーションを図るために必要なばかりではなく、その背景となる社会や文化を理解するためにも重要です。英語では能力別クラス編成によって、各自の今もてる力をいっそう伸ばします。第二外国語としては、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語が開講されています。



教養総合講座



英語



化学実験

保健体育学系科目：講義と実技により、身体知を身につけます。他者の身体に関与する医療者は、まず自らの身体を熟知し、それを管理できる能力が必要です。フィットネスマネージメントではこのような能力を身につけるための時間も設けています。

教養総合講座：入学直後には「教養総合講座」が全学生を対象に開講されます。全学科横断で構成される少人数グループそれぞれを、交替で2名の教員が担当することで、学生と教員との親密なふれあいの場が提供され、その中で、大学での学習に必要な資料の収集方法や、議論の仕方、成果のまとめ方や発表の仕方を学んでいきます。基本的な文章表現や情報リテラシーの学習もこの「教養総合講座」の中に含まれます。

2年次以降（湯島地区開講科目）：2年次以降の湯島キャンパスでも、教養部が担当する科目が開講され、より深い人間への理解と科学的視野を持った医療人の育成を目指します。医学部医学科、歯学部歯学科対象の「主題別選択Ⅰ・Ⅱ」や「主題別人文社会科学セミナー」、歯学部歯学科対象の「生命科学」や「サイエンスPBL」などです。

授業科目

哲学	人体の生物学基礎
倫理学	英語
心理学	日本語（留学生のみ）
宗教学	ドイツ語
芸術	フランス語
歴史学	中国語
民俗学	スペイン語
科学史	物理学実験
文学	化学実験
法学	生物学実験
政治学	科学基礎実験
経済学	科学基礎演習
社会学	情報科学
社会心理学	情報処理
社会思想史	スポーツ・健康科学
文化人類学	フィットネスマネジメント
社会科学特論	自由選択科目
Japanese Culture and Society	教養総合講座
グローバル教養科目	医療人間学概論
物理学入門	医療人間学セミナー
生物学入門	生命科学基礎
化学入門	主題別選択Ⅰ
数学	教養英語
数学基礎	情報科学演習
統計学	サイエンスPBL
物理学	生命科学
化学	人文社会科学総合講義
化学基礎	主題別選択Ⅱ
生物学	主題別人文社会科学セミナー
細胞生物学基礎	

湯島地区・駿河台地区

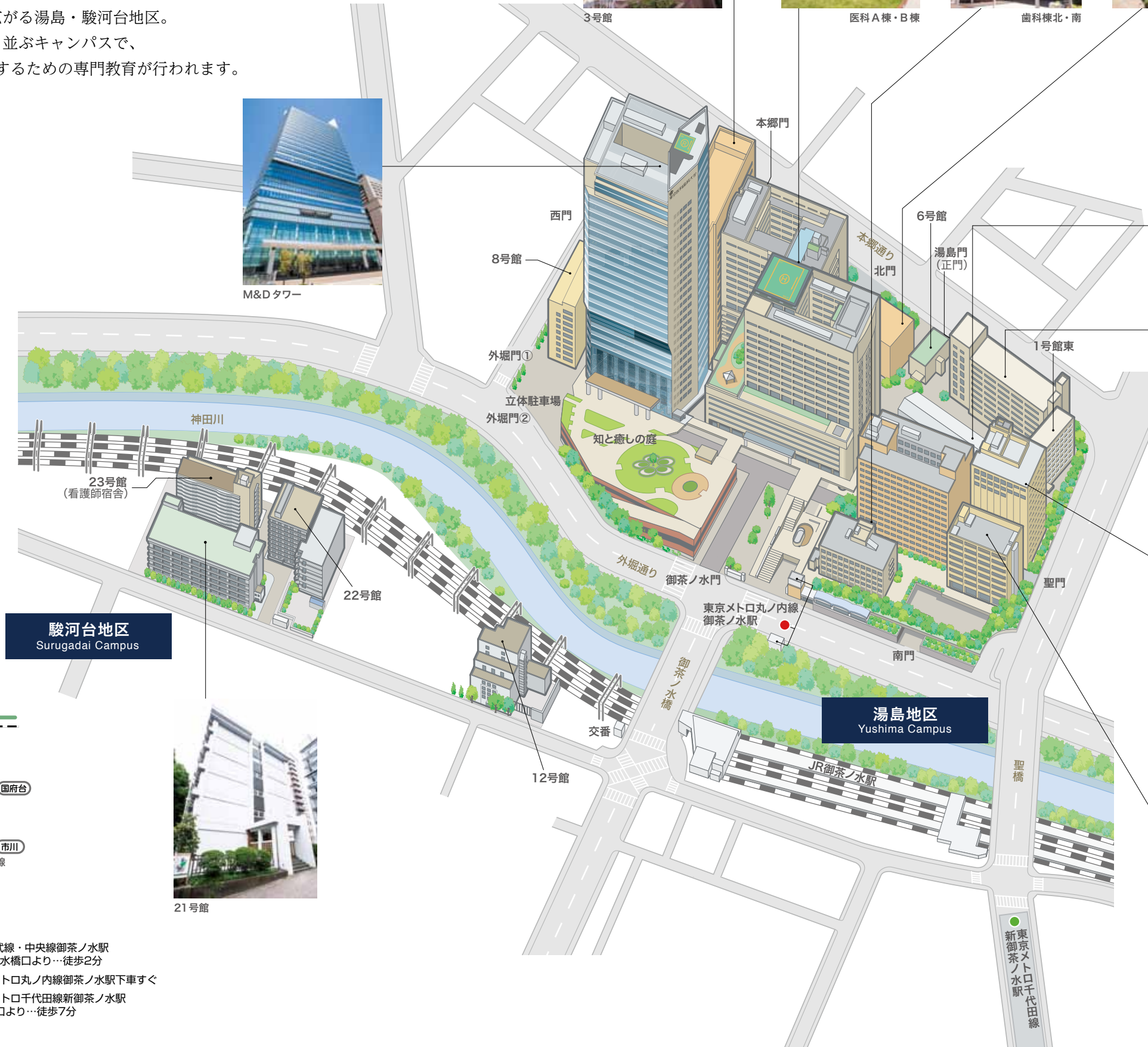
東京都心の歴史ある地域に広がる湯島・駿河台地区。
研究棟や附属病院が建ち並ぶキャンパスで、
高度な知識と技術を持つ医療人を育成するための専門教育が行われます。

医学部	医学科……………	2～6年次
	保健衛生学科……………	2～4年次
歯学部	歯学科……………	2～6年次
	口腔保健学科……………	2～4年次

※本学では、教養部（国府台地区）にて「全学共通科目」を履修してから、
湯島地区において「専門科目」を履修します。



M&Dタワー



3号館



医科A棟・B棟



歯科棟北・南



5号館



2号館



1号館西



7号館

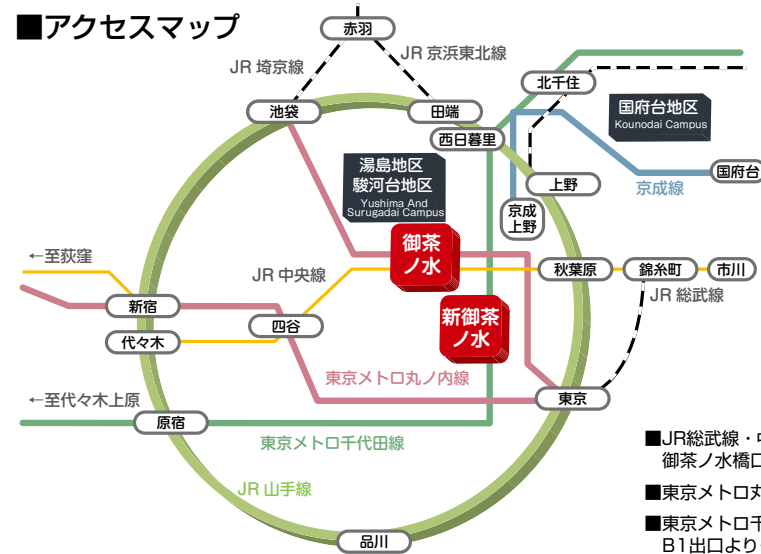


10号館



21号館

■アクセスマップ



- JR総武線・中央線御茶ノ水駅
御茶ノ水橋口より…徒歩2分
- 東京メトロ丸ノ内線御茶ノ水駅下車すぐ
- 東京メトロ千代田線新御茶ノ水駅
B1出口より…徒歩7分

生体材料工学研究所

近未来の医療を支える科学技術の世界的研究拠点

■研究所の概要

生体材料工学研究所は、駿河台地区の21号館および22号館に位置しています。医療系総合大学である東京医科歯科大学に設置された工学系の研究所として生体機能の修復・解析に用いられる生体材料や生体工学の研究・教育を行う、我が国で唯一の国立大学附置研究所です。医歯工連携というユニークな特徴を生かし、医学・歯学系の研究者や病院と密接に連携しながら機能分子、生体材料、生体システムなどの分野で医療における

「ものづくり」を支える先導的な研究所として世界をリードする研究を進めており、これまでに多くの製品を社会に送り出してきました。教育面では本学の理念である「医歯工連携」の「工」の分野を担当し、生体材料、生体工学、そして創薬などの機能分子の教育を通じて、高度な先端医療を担い最先端研究を先導する人材の育成を行っています。

■未来医療を開く最先端研究

生体材料工学研究所では先端医療に関連する幅広い研究が行われており、数多くの研究成果が発表されています。これらの研究成果から、最先端の医薬品や医療用材料などが生み出されています。

【機能分子】レチノイド(活性型ビタミンA)の作用を担う核内受容体の機能を特異的に制御する分子を創製し、白血病治療薬として臨床応用しました。さらに自己免疫疾患や脳機能疾患等への適応の拡大を進めています。(写真1)

【生体材料】超高压処理技術による安全な再生医療用移植材料が開発され、これまでは不可能と言われていた角膜についても実験

レベルで優れた成果が得られており、臨床応用への準備を進めています。(写真2)

【生体システム】疾病や代謝に基づき生成され、呼吸や皮膚ガスとして放出される揮発性化学物質を、高感度かつ選択的に計測可能な気相用バイオセンサおよび可視化システムを開発し、脂質代謝に基づく呼吸中アセトンガスの連続計測や、皮膚表面から放出される代謝成分の二次元可視化を実現した。(写真3) 医学部と連携して、内視鏡手術を支援するロボットシステムの開発を行っています。術者に力覚提示を可能として安全性を高めることを特長としており、数年後の臨床実験を目指しています。(写真4)

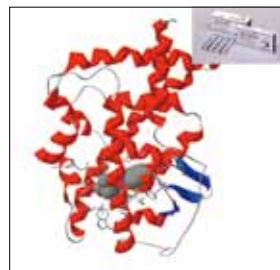


写真1



写真2



写真3



写真4

■社会の要請に応える学際領域の教育

本研究所の各分野は大学院医歯学総合研究科での学際領域の教育、研究にも参画しており、下記のような学位を取得するための研究指導を行っています。

【大学院医歯学総合研究科 修士課程医歯理工学専攻】

2年の標準修業年限で修士(理学)、修士(工学)、修士(医科学)、修士(歯科学)などが取得できます。

【大学院医歯学総合研究科 博士課程生命理工学系専攻】

3年の標準修業年限で博士(理学)、博士(工学)のいずれかが取得できます。

【大学院医歯学総合研究科 博士課程医歯学系専攻】

4年の標準修業年限で博士(医学)、博士(歯学)、博士(学術)の学位のいずれかが取得できます。

難治疾患研究所

“難治疾患”を標榜する我が国唯一の国立大学法人附置研究所

■研究所の概要

難治疾患研究所は、「難治疾患の学理と応用」を目的とした“難治疾患”を標榜する我が国唯一の国立大学法人附置研究所です。1973年、医学部附属の農村厚生医学、難聴、総合法医学、硬組織生理、遺伝病、心臓血管、内分泌の7つの研究施設の再編によって設置され、2004年より、先端分子医学、難治病態、ゲノム応用医学の3部門の下に、22分野、フロンティア・プロジェ

クト研究室、2連携研究部門が所属しています。本研究所は、2009年6月25日、我が国の学術研究の発展に特に資するものとして、文部科学大臣により全国共同利用・共同研究拠点「難治疾患共同研究拠点」に認定され、2010年度より活動を開始、2016年度より第2期目に入っています。また、大学の学部教育、大学院教育にも多大な貢献をしています。

■我が国をリードする研究活動

本研究所では、難治疾患を「病因・病態が明らかにされていないために未だ有効な診断法、治療法や予防法が確立されていない病気」と定義付け、生命誕生から老年期にわたる各時期の難治疾患を研究しています。特に、悪性腫瘍、循環器、運動器、免疫、代謝、神経及び稀な遺伝疾患の研究では、それぞれの領域を牽引する成果をあげるとともに、がんCGH解析、心筋症、先天異常症などの難治疾患バイオリソース、難治疾患オミックス

データベースを産み出しています。

また、広い視点から基礎生命科学の最先端研究に大きな力を注いでおり、マウスは勿論、アフリカツメガエル、ショウジョウバエ、線虫、メダカを研究材料とした成果は、さまざまな疾患のモデル動物や細胞のリソースバンクとして蓄積されています。さらに、幹細胞研究の分野が加わり、発生・再生医学研究を力強く推進しています。

■充実した大学院教育研究支援施設

本研究所は、大学院教育研究支援施設を充実させており、現在、ゲノム解析室、細胞プロテオーム解析室、遺伝子組換えマウス実験室、形態機能解析室、バイオリソース支援室、幹細胞支援室、生命情報室、構造解析室の8つを整備しています。これらの研究支援室は、「難治疾患共同研究拠点」の活動と、本学の大学院教育を支援しており、さらに、設備・機器と研究経費の有効利用に貢献しています。



■学部、大学院生の教育及び若手研究者の育成

本研究所の教員は、本学医学部、歯学部、大学院医歯学総合研究科の教育を積極的に担っております。これまでの大学院生命情報科学教育部・疾患生命科学研究部は、2012年度より改組され、それぞれ修士の医歯理工学専攻、博士課程の生命理工学系専攻へと発展移行しましたが、すべての専攻の教育、研究に積極的に参画しており、疾患研究領域と先端的な生命科学との融合学際分野での人材育成に関わっています。また、お茶の水女子大学、学習院大学、北里大学と共同で行っている「学際生命科学東京コンソーシアム」でも講義・演習を担当しています。若手研究者育成のためのテニュアトラックプログラム(メディカルトップトラックMTT)を引き継ぎ、自主財源によるテニュアトラック制度を継続させています。また、常に女性研究者育成を心掛けています。



図書館

本館（湯島地区）

図書館本館は、M&D タワーの 3 階と 4 階に位置しています。
蔵書は、医歯学系の専門図書約 22 万冊です。その中には貴重書として、杉田玄白の「解体新書」の初版本、その元になった「ターヘル・アナトミア」、「ファブリカ」(人体構造論)*の初版本などもあります。

吹き抜けになっている閲覧室には、閲覧机を配し、座席数は 181 席、学生が自由に使える備え付けのノート PC、持ち込んだ PC を接続できる無線 LAN、コピー機 3 台が設置されています。自動貸出機や自動書庫など最新の設備も整えています。

4 階の情報検索室には、132 台の PC と、プリンター 2 台が設置されています。レポートの作成や e-learning など自主的な学習を進められる環境があります。

書籍だけではなく、著名な医学分野の教科書や参考図書を電子書籍として約 500 タイトル、医歯学分野の学習・研究には欠かせない電子ジャーナルを約 8000 タイトル、データベースを 11 タイトル提供しています。これらは、学内ネットワークを使って、教室や演習室からも利用できます。

また、明治大学の図書館と相互利用の協定を結んでいます。本学の学生は、明治大学の中央、和泉、生田図書館で書籍の閲覧や貸出を受けることができます。さらに、順天堂大学図書館、東京大学医学図書館、日本医科大学中央図書館、文京学院大学本郷図書館とも相互利用協定を結び、各大学の図書館で書籍を閲覧することもできます。



「解体新書」

* **ファブリカ** (人体構造論): アンドレアス・ヴェサルイウスの著した解剖学書で、1543 年に刊行された。近代医学の出発点をなしたと言われ、300 点以上の挿絵があり、写実的な解剖図が特徴である。



「ファブリカ」



閲覧室全景



情報検索室



閲覧コーナー

HP : <http://lib.tmd.ac.jp>

利用時間: 平日 8:30 ~ 22:00、土・日・祝日 10:00 ~ 18:30
(プレ開館時は 8:30 より入館可)

休館日: 年末年始 (12/29 ~ 1/3)

分館（国府台地区）

図書館国府台分館は教養部キャンパス内にあり、教養教育の充実のため幅広い分野の資料を収集しています。

また平成 26 年度に改修工事を終えて、平成 27 年 4 月にリニューアルオープンいたしました。その際に耐震面での対策を施すとともに修学支援をより強化するためにさまざまな新しい設備を導入しています。

・対話可能な活発空間の新設

医療人として必要不可欠な対話力・表現力を養うためにラーニングコモンズおよび PC を用いた共同学習向けスペースであるコラボレーションエリアを新設しました。

・PC 環境の充実

PC ロッカーを新設し、アクティブラーニングに必要な不可欠な PC の貸出に関わる煩雑な手続きを一掃しました。ロッカーには常時タブレット PC が 20 台程度入っており利用者は図書館内であればどこでも移動の上、目的に合致したスペースにおいて検索・調査を行うことができるようになりました。

・セミナールームの新設

蔵書を集密書架において効率的に保管することで、余ったスペースに少人数授業に用いるためのセミナールームを 2F に 3 室、1F にはプレゼン向けの部屋を 1 室新設しています。教養総合講座等の少人数教育において広く活用されています。

・静謐な空間の整備

活発な空間とともに依然利用者のニーズが高い静謐な自習スペースも再整備しました。活発空間との間に特殊な消音ガラスを用いることで両スペースの共存を図っています。



集密書架



セミナールーム

保健管理センター

医療従事者を目指す学生たちの健康管理をサポート

学生に対する心身の健康の保持・増進を支援することを目的に運営されています。

湯島地区 5 号館 2 階にあります。国府台地区シャン・ドゥ・コースリー 1 階にも分室がありますので、健康面に関して安心して学生生活を送ることができます。

定期健康診断

1 年生は、専門課程の学生と共に、湯島地区で定期健康診断を実施しています。そのほかにも必要な健康診断を実施しており、学生の健康管理をサポートしています。

健康相談と診断証明書の発行

心身を含めての健康上の心配事や、人間関係、勉学上の悩みなどさまざまな相談に応じています。また、定期健康診断をもとに進学や就職のための健康診断証明書の発行を行っています。

診療業務と専門医への紹介

体調不良がある場合は、当センターで診療も行っていますので相談に来てください。必要に応じて専門医への紹介もしています。軽い怪我の処置も行います。横になって休養が必要な方のためにベッドも用意していますのでご利用ください。

疾病予防（ワクチン接種など）

感染予防のために、新入生に対して下記のワクチン接種を実施しています。特に、医療系の大学として良質な医療人を養成するためにも最低限欠かせないワクチンの接種ですので、必ず受けるよう学生に指導をしています。

麻疹(はしか) ワクチン

水痘(水疱瘡) ワクチン

風疹ワクチン

B 型肝炎ワクチン

ムンプス(おたふく) ワクチン

破傷風トキソイド

そのほか、病院実習前に T スポット®.TB 検査やインフルエンザワクチン接種も行っています。

HP : <http://www.tmd.ac.jp/hsc/>



湯島地区保健管理センター



国府台地区保健管理センター

学生・女性支援センター

充実したキャンパスライフを送るためのトータルケア

本学の学生に対して、生活、修学、就職、メンタルヘルス及びハラスメントに関することなど、

キャンパスライフ全般にわたり、学生支援活動の充実を図ること、

男女共同参画の推進を行うことを目的としています。

センターの業務

学生支援に関すること、修学支援に関すること、就職支援に関すること、メンタルヘルス(保健管理センターと連携) 及びハラスメントに関する相談及びカウンセリングに関すること、キャリアパスに関すること、ワーク・ライフ・バランス(育児や介護と学業との両立問題など) に関すること、保育支援に関すること、障害のある学生に対する支援に関すること。

センターの職員

センター長、教員、臨床心理士、事務職員(学生支援事務室)



学部生へのキャリア講義



発行されている冊子

学生支援制度

学生寮

千葉県市川市の国府台地区には、主に遠方から本学に入学される方のために、大学敷地内に学生寄宿舍（男子寮収容定員 70 名）及び国際学生宿舍（女子寮収容人員 50 名）を備えています。詳細は以下のとおりです。

名称	里見寮（男子寮）	国際学生宿舍（女子寮）
募集人員	26 名程度（例年実績）	37 名程度（例年実績）
設置	昭和 38 年（平成 22 年 3 月全面改修）	平成 6 年 6 月
設備	鉄筋コンクリート 4 階建（個室 約 6 畳）	
入居時期	4 月 1 日以降	
入居期間	原則 2 年以内	原則 1 年以内
寄宿料	月額 17,800 円（光熱水費は別途実費）	月額 5,900 円（水道費は別途実費）
その他費用	共通施設光熱水費の実費 ルームクリーニング代（初回引落時 14,300 円） その他消耗品（電球等） 自治会費	共通施設光熱水費の実費 ルームクリーニング代（初回引落時 14,040 円） その他消耗品（電球等） 居室の電気・ガス代は各自で業者と契約
居室	ユニットバストイレ、キッチン（IH）、冷蔵庫（冷凍室有）、エアコン、机付ベッド、椅子、クローゼット、下駄箱、LAN システム（無料）	ユニットバストイレ、キッチン（ガス）、冷蔵庫（ホテルサイズ）、エアコン、机、椅子、ベッド、クローゼット、下駄箱、LAN システム（有料）
共同施設	談話室、ランドリー室、共同浴場	多目的室（テレビ付）、共同キッチン、コインランドリー（有料）
選考について	必要書類を期限までに提出し、面談	必要書類を期限までに提出



男子寮ランドリー室



女子寮ユニットバストイレ



女子寮居室

経済支援制度

- ・入学科免除
入学前 1 年以内に学費負担者が死亡または風水害等の災害を受けた場合、学長が相当と認める事由がある場合には、選考のうえ入学科が免除されることがあります。
- ・授業料免除
経済的理由により納付が困難であり、かつ学業が優秀であると認められる場合または入学科免除と同等の理由がある場合には、選考のうえ授業料が免除されることがあります。
- ・日本学生支援機構奨励学生制度
人物・学業ともに優秀かつ健康で、学資の支弁が困難であると認められた者に対して、第一種奨学金（無利子）または第二種奨学金（有利子）の学資が貸与されます。
上記以外にも、入学科、授業料徴収猶予制度や地方公共団体、民間団体等の奨学制度もあります。

受験、入学から卒業までに必要な経費

本学を受験、入学、卒業するまでの経費を概算で示しています。

A. 入学前に必要な経費（平成 28 年度入学者実績）

項 目		医学	看護	検査	歯学	衛生	工学
検定料		17,000	17,000	17,000	17,000	17,000	17,000
入学科		282,000	282,000	282,000	282,000	282,000	282,000
血液検査		5,000	5,000	5,000	5,000	5,000	5,000
TOEFL / ITP 受験料		3,650	10,550	10,550	3,650	10,770	10,770
新入生オリエンテーション参加費		20,000	20,000	20,000	20,000	20,000	20,000
合宿研修参加費		20,000			20,000		
学生教育研究災害傷害保険料		4,800	3,370	3,370	4,800	3,370	3,370
医学生教育研究賠償責任保険料			2,000	2,000	3,000	2,000	2,000
自治会納付金		6,000	4,000	4,000	6,000	4,000	4,000
学友会	入会金	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000	3,000
	会費	30,600	20,400	20,400	30,600	20,400	20,400
	体育祭費	4,200	2,800	2,800	4,200	2,800	2,800
	文化祭費	9,000	6,000	6,000	9,000	6,000	6,000
同窓会費		50,000	30,000	30,000	50,000	9,000	21,000
合 計		455,250	406,120	406,120	458,250	385,340	397,340

B. 入学後、各学年において必要な経費（概算ですので、目安としてご参照ください。）

学年	項目	医学	看護	検査	歯学	衛生	工学
1	授業料（前期）	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900
	授業料（後期）	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900
	辞書	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000	4,000
	教科書（共通）	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000	6,000
	教科書（学科別）	17,000	26,000	29,000	13,000	24,000	11,000
	実習用機械器具等	19,000	30,000	3,500	19,000	5,000	1,000
	文具等	5,000	5,000	5,000	5,000	3,000	
	ノートパソコン	190,000	190,000	190,000	190,000	190,000	190,000
	その他	15,000	13,000	13,000	15,000	10,000	
	小計	791,800	809,800	786,300	787,800	777,800	747,800
2	授業料（前期）	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900
	授業料（後期）	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900
	教科書等	120,000	80,000	60,000	130,000	30,000	24,000
	実習衣等	13,000	35,000	5,000	13,000	17,000	4,000
	実習用機械器具等	60,000	10,000		20,000	80,000	163,700
	シューズ		6,000	5,000		5,000	
	小計	728,800	666,800	605,800	698,800	667,800	727,500
3	授業料（前期）	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900
	授業料（後期）	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900
	教科書等	110,000	40,000	50,000	130,000	30,000	2,600
	実習用機械器具等		10,000		43,000	20,000	13,500
	学外実習交通費		10,000	10,000		3,000	6,000
	小計	645,800	595,800	595,800	708,800	588,800	557,900
4	授業料（前期）	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900
	授業料（後期）	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900	267,900
	教科書等	70,000	20,000	30,000	160,000	30,000	
	実習衣	13,000		5,000	5,000		4,000
	実習用機械器具等	20,000			220,000	20,000	8,000
	卒業論文集印刷代		5,000	5,000		5,000	1,000
	国試・模試受験料		20,000	20,000		30,000	37,000
	学外実習交通費		10,000	10,000		10,000	
	学外実習施設使用料		2,000	2,000		30,000	
	小計	638,800	592,800	607,800	920,800	660,800	585,800
5	授業料（前期）	267,900			267,900		
	授業料（後期）	267,900			267,900		
	教科書等	90,000			100,000		
	実習衣	5,000			5,000		
	実習用機械器具等				30,000		
	共用試験受験料	28,000			25,000		
6	小計	658,800			695,800		
	授業料（前期）	267,900			267,900		
	授業料（後期）	267,900			267,900		
	教科書等	110,000			40,000		
	実習衣	5,000			5,000		
	国家試験受験手数料	15,300			18,900		
合 計	小計	666,100			599,700		
	合 計	4,130,100	2,665,200	2,595,700	4,411,700	2,695,200	2,619,000
総 計（A + B）		4,585,350	3,071,320	3,001,820	4,869,950	3,080,540	3,016,340

学生のある一日

東京医科歯科大学には現在約1500人の学部学生が在籍しています。大学生活と一口でいっても、大学や学部、学科によってさまざまです。そこで、本学で充実したキャンパスライフを送っている学生さん達に協力してもらい、ある1日をリサーチしてみました。どんな学生生活を送っているのか、少しだけのぞいてみましょう。



林 直輝
医学部 医学科5年

医学部医学科の5年生は、基礎医学や臨床医学の一通りの講義が終わっており、附属病院での臨床実習を行っています。病棟で研修医や指導医の先生の指導を受けながら、受け持ちの患者さんの診察をしたり、学生カルテを記載したりします。外科の実習では手術見学も行います。実習中は患者さんから教わるのがとても多いです。患者さんの病歴を見て疑問に思ったことを調べたり、最適な治療法やその根拠を検討したりしていると、自然と勉強になります。手術見学では、解剖学など、講義室で学んだことを実際に目の当たりにすることができます。血管一つ、あるいは術者の手つき一つを取ってもとても勉強になります。朝は早いですが放課は17時前後なので、プライベートの時間がなくなって困る、ということはありません。実習に出つつ、興味を持ったことを勉強し、趣味やサークル活動をしていると一日が終わる、というような、穏やかでメリハリのある生活をしています。

🕒1日のタイムスケジュール

5:30	起床
7:30	登校
8:00	診療科の朝カンファレンス
8:30	
10:30	診察、カルテ記載、手術見学など (途中適宜お昼休憩)
12:30	
14:30	
16:00	診療科の夕方カンファレンス
17:00	放課、メールチェック、プレゼン テーションの準備など
17:30	
18:30	夕食
19:00	サークル活動など
20:30	
21:00	
22:00	帰宅、勉強
23:00	就寝



奥田 大樹
歯学部 歯学科5年

本学歯学科の授業には、講義のみではなく多くの実習が組み込まれています。5年次後期からは実際に患者さんを受け持つ包括臨床実習が始まるため、日々の実習一つ一つを大事に過ごしています。実習では模型を用いた歯の切削・充填や義歯の作成を学んでいます。また試験も多く勉強時間も取らなければいけません。その疲れをいやすため、私は部活動や本学にあるフィットネスルームで身体を動かしてリフレッシュをしています。部活動は水泳部に所属しており、4年次は部を仕切る側だったため休むことができませんでしたが、メリハリをつけることで勉強にも集中でき、夏の大会でも記録を出すことができました。また、部活動がない日はバイトをしたり友人宅に行き遊んだりと楽しく過ごしています。医療大学に堅苦しいイメージがあるかもしれませんが、本学では学問のみならず部活動などを通して医療者にとって大切な人との関わりを学ぶことができます。この素晴らしい環境が君たちを待っています。

🕒1日のタイムスケジュール

6:30	起床、朝食
7:00	
8:30	登校
9:00	
10:00	1～3限 歯科矯正学実習
11:50	
12:00	昼食
13:00	
14:00	4～6限 口腔外科講義
15:40	
16:00	図書館で自習
19:00	部活 or フィットネスルーム
21:00	
22:00	夕食
23:00	自習
24:00	就寝



比佐 加奈子
医学部 保健衛生学科
看護学専攻4年

私は一人暮らしをしています。朝のカフェでオープンバイトを始めてからは自発的に起きることができるようになりました。授業は看護の先生の講義だけではなく医師や外部の専門家の方による興味深い授業もあります。またグループワークをして学生同士で話し合いながら課題に取り組むこともあります。お昼ご飯は学内のコンビニや生協などで買ったり、御茶ノ水駅まわりのお店で食べることもあります。図書館では多くの医学や看護に関する本があり、今は卒業研究のために文献検索をパソコンで行っています。勉強スペースもあり多くの人が勉強しています。図書館前の場所は学生の交流の場になっていて、よく友人とおしゃべりをしています！週に1度、夕方から始まるHSLPという国際的視点とリーダーシップを学ぶ特別講義に参加しています。終わる時間は少し遅いですが、他学科の学生と共に英語で内容の濃い授業を受けることができるので、いつも充実感を感じています。

🕒1日のタイムスケジュール

6:00	起床
7:00	
8:00	アルバイト
9:00	
10:00	登校
10:30	2限目「国際看護学」
12:00	昼食
13:00	
14:30	3限目「健康教育学」
14:40	
16:10	
16:30	図書館で調べもの、課題などの勉強
18:00	友達と夕食
18:30	
21:00	HSLPクラス受講
22:30	就寝



渡邊 梨奈
歯学部 口腔保健学科
口腔保健衛生学専攻2年

授業は50分1コマで毎日1～7限まで講義と実習があります。私は社会福祉の選択科目もとっているので週に一度は8限まであります。時間が長いので少し大変ですが、毎時間学ぶことがたくさんあり興味深い話ばかりなので、今日は何が聞けるかなと毎日とても楽しみです。また、学科の人数が少ないことも美点だと思います。いつも共に学んでいるので皆仲が良く、さまざまな場面でお互いに助け合っています。学校の後は、平日は週に3日洋菓子店でアルバイトをしています。アルバイトを通して他の大学の人の輪が広がったり、いろいろな人の話を聞いて新しいことを学べたりして本当に楽しいです。私は一人暮らしなので家事もしています。一年生のころから昼食はほとんどお弁当を作っています。高校生の時には家事の手伝いをあまりしていませんでしたが、一人暮らしを始めて家事の大変さを知り両親への感謝も強くなりました。毎日がとても充実しています！

🕒1日のタイムスケジュール

7:00	起床
8:40	登校
9:00	
10:50	1、2限目「食生活教育」
11:00	
11:50	3限目「健康教育の基礎」
12:00	昼食
13:00	
14:50	4、5限目「口腔疾患予防学の基礎」
16:50	
18:00	
22:00	アルバイト
22:00	
23:00	自由な時間
24:30	就寝



篠田 光甫
医学部 保健衛生学科
検査技術学専攻3年

高校の生物の授業で血液や免疫について学び、私たち自身が意識していないのに怪我や病気が治るのはなぜなのだろうと、さらにこの分野の学びを深めたいと思い、数多くある大学学科から東京医科歯科大学の検査技術学専攻を選びました。検査技術学専攻の講義は毎日発見がたくさんあり、血液や免疫以外にも病理学、生理学、遺伝子、生化学、医用工学などそれぞれの分野の研究がどこまで進んでいるのか、また臨床での応用がどのように進められているのかを日々、教えていただけるため、未知の分野に関しても興味を持って勉強を進めていけるところが素晴らしい点だと思います。実習では実際の医療現場で行う検査業務を、現場で使われている器具を使って手技を学びます。授業で聞くだけでは全ての内容を理解するのは難しいですが、実際に自分の手を動かしてやってみることで、机と椅子にいただけでは決して得ることのできない体験ができます。最先端の医療に触れたい方は、ぜひ検査技術学専攻でその学びを深めてください。

🕒1日のタイムスケジュール

7:00	起床・朝食
7:30	登校
8:30	学校到着
9:00	1限 神経科学講義
10:30	2限 免疫検査学講義
12:30	昼休み・友人と昼食(3限がない時は外へ)
13:00	3限 血液検査学講義
14:30	4限 血液検査学実習
16:30	図書館や喫茶店で勉強や趣味の読書、PC
17:30	移動
18:00	アルバイト(教育関係)
22:00	アルバイト終了
22:30	帰宅・夕食・お風呂
23:00	
24:00	小テスト対策(復習)・英語(TOEIC、TOEFL)の勉強・趣味の時間
24:30	就寝



古宮 奈保子
歯学部 口腔保健学科
口腔保健工学専攻2年

私は実家暮らしをしています。最寄り駅から御茶ノ水駅まで1時間半はどかかるので、早寝早起きの規則正しい生活を送っています。私たちの専攻の授業では、義歯に関する実習や歯科材料に関する実験など、将来直接関わってくることはもちろん、他学科の先生に来ていただいて歯に関することを中心にそれ以外にも幅広く勉強します。午前は講義、午後はその実習となる日も多いので、一日中、一人の先生と過ごす機会も多く、学生の人数も少ないのでわからないことはすぐ聞けるなど、いつもアットホームな雰囲気です。お昼ご飯は友達とお弁当を食べたり、外に食事に行ったりもします。オーケストラのサークルに入っているので、水曜日の放課後と土曜日の昼間は楽器の練習をしています。インカレサークルなので、他学科はもちろん他大の学生とも交流を持てて交友関係が広がります。中高と続けている音楽で新しい仲間とさまざまな音楽を作っていくのはとても楽しいです。

🕒1日のタイムスケジュール

5:00	起床
8:15	登校
8:50	楽器の朝練または授業の予習
9:00	
10:00	1～3限 「歯の形態実習」
11:50	
12:00	昼食
14:00	
15:00	5～7限 「感染予防」
16:50	
17:30	
18:00	サークル
19:30	
21:00	
22:00	帰宅、夕食(課題があれば進める)
22:30	就寝

サークル活動

18 の文化系サークルと 27 の体育系サークルがあり、
国府台地区、湯島地区にある各施設や学外のフィールドで活発に活動を展開。
学部・学科を越えた友情の輪を広げる場にもなっています。

文化系

- ・English Speaking Society (E.S.S)
- ・お茶の水管弦楽団 (オーケストラ部)
- ・混声合唱団 (コーラス部)
- ・公衆衛生予防医学研究会
- ・Modern Jazz Diggers (M.J.D)
- ・コンピューター部
- ・学生国際交流会 (S.S.I.A)
- ・Tokyo Medical & Dental Piano Club (ピアノの会)
- ・TMDU Emergency Medicine Study Sessions organized by students (TESSO)
- ・美術部
- ・写真部
- ・茶道部
- ・演劇部
- ・ジャズ研究会
- ・アカペラ部 tic tac ♪
- ・iPag
- ・文藝部
- ・将棋部

体育系

- ・漕艇部
- ・剣道部
- ・弓道部
- ・硬式庭球部
- ・ソフトテニス部
- ・硬式野球部
- ・卓球部
- ・ラグビー部
- ・ハンドボール部
- ・ゴルフ部
- ・陸上競技部
- ・スキューバダイビング部
- ・アメリカンフットボール部
- ・男子バスケットボール部
- ・女子バスケットボール部
- ・サッカー部
- ・ヨット部
- ・男子バレーボール部
- ・女子バレーボール部
- ・スキー部
- ・水泳部
- ・ワンダーフォーゲル部
- ・バドミントン部
- ・フットサルサークル
- ・ダンスサークル
- ・釣り部

今後のキャリアにも活かせる サークル活動



松田 和樹
医学部 医学科4年

Modern Jazz Diggers
(MJD)

MJD は約 80 人の部員が所属している学内唯一の軽音サークルです。体育祭、御茶ノ水祭といった学内行事で演奏するほか、ライブハウスでライブをしたり、合宿を行ったりとさまざまな形で音楽を楽しんでいます。また、夏は海や納涼船、冬はスノボ旅行など、音楽以外のイベントも企画し、和気藹々と活動しています。大学から楽器を始めた人も多いのですが、中にはオリジナルで CD を出している部員もいます。一方で、自分の出たい時期にライブに出られるため、勉強やバイト、他の部活と兼部しながら、時間を見つけて活動することもできます。

サークル活動を通して他学年、他学科、さらには他大学と交流する機会は必ず今後のキャリアに活きてくるとしています。医科歯科で皆さんをお待ちしています。

部活で得られる学びとよこび 素晴らしい出会いの数々



山川 祐馬
医学部 医学科5年

ソフトテニス部

ソフトテニス部は経験者と初心者が入り混じって楽しく練習を行っています。個人戦や団体戦が何度かあるため、それに向けてみんな頑張っています。私は大学からソフトテニスを始めましたが、入った理由として部活の雰囲気、惹かれた部分が大きいと思います。技術的に上達していくことの楽しさ、先輩後輩との関わり方、試合という勝負の場への臨み方など、多くのことを学ぶことができます。「勝ち負け」が存在する以上、もちろん楽しいことだけではなく、目標に到達したときの嬉しさは格別です。視野を広く持ち、周囲と意見を共有していくという力は、社会に出た時に必ず役に立つと思いますので、部活を通して学んでいきたいです。

学部学生海外研修奨励賞

学部学生に対して海外研修の機会を提供し、豊かな感性と国際性を持つ人材の育成に役立てるため設けられた制度で、対象となるのは海外研修への意欲に満ち、心身ともに健全で、学業優秀と認められる学部学生。ジョンズ・ホプキンス大学、セイナヨキ応用科学大学、オックスフォード大学など、世界の大学や医療機関で貴重な経験を積み、さまざまな発見をし、大きく成長しています。



平成 27 年度 東京医科歯科大学海外研修奨励賞贈呈式



カンボジア
世界保健機関 (WHO) カンボジア事務所



新城 雄士
医学部 医学科 5 年

発展途上国で感染症対策に
取り組む

私はカンボジア保健省への技術支援を主な業務とする WHO カンボジア事務所 Emerging Disease Surveillance and Response ユニットにて研修を行いました。韓国で中東呼吸器症候群のアウトブレイクが起きていたため、私もカンボジア国内の対策に従事し、疑い例への質問書や患者発生時の病院手順書などを作成しました。また、狂犬病などのアウトブレイク調査にも同行、支援に取り組みしました。インフルエンザサーベイランスのプロジェクトも行い、その成果を国際会議で発表、論文を執筆し、保健省での導入が決定しました。発展途上国の現場での活動により、国際機関の強みや課題を垣間見ることができました。多くの大学内外関係者に支えられ、充実した研修ができたことを心より感謝します。



アメリカ
ジョンズ・ホプキンス大学



三谷 怜
医学部 医学科 5 年

井の中の蛙
大海を知る

私は海外研修奨励賞をいただき、米国ボルチモア市にある Johns Hopkins University で「末梢免疫系が脳や行動に与える影響」をテーマに半年間研究を行って参りました。

研究室には世界中から医学生が集まっており、彼らと共に研究を行うことで世界の学生のレベルを実感し大きな刺激を受けました。また、米国で活躍している日本人の方々の話は将来の選択肢を吟味する上で非常に参考になりました。研究室の外でも世界中の人々と知り合う機会が多く、さまざまな文化、宗教に触れることができました。

今回の海外研修で私は日本では得られない貴重な経験を通じて、大きく成長して帰ってくることができました。このような機会を与えていただいたことに心より御礼申し上げます。



学部学生海外研修奨励賞

 フィンランド
セイナヨキ応用科学大学



笹井 佳奈
医学部 保健衛生学科
看護学専攻 4年

これからの看護、そして
自らのキャリアについて
深く考える機会となった

私は3年次の8月から9月にかけて、フィンランドのセイナヨキ応用科学大学での18日間の研修に参加させていただきました。病院や老人ホームをはじめとする保健施設の見学や大学の特別授業への参加を通して、社会制度から人々の暮らしまで、高福祉国家フィンランドと日本の共通の課題やそれぞれの良さを肌で感じることができました。

現地での学びは、将来へのモチベーションとなっています。これから看護の道を究めていく上で、保健・医療・福祉、そして文化についての広い視野を持ち続けていきたいと考えています。この機会を与えてくださった先生方、また現地で支えていただいた全ての方に感謝しております。



 フィンランド
セイナヨキ応用科学大学



鈴木 はるの
医学部 保健衛生学科
看護学専攻 4年

海外で実際に見聞きした
経験は、新たな価値観を
得ることにつながる

私はフィンランドのセイナヨキ応用科学大学にて研修を行う機会をいただき、病院、高齢者施設、ネウボラなどの施設を訪問しました。

特にネウボラでは、保健師が妊娠期から就学前まで一貫して子どもと家族を支援している点や、日本と同様に高齢化が進み、高齢者ケアと在宅医療を重点化している点が印象的でした。また、現地の様子から、患者の意思を尊重した関わり方や対象者との信頼関係の構築など、看護支援を行う際の重要な視点は万国共通だと実感しました。

実際の実践方法や人々の考えを見聞きすることで、これまでの固定概念が打ち破られ、看護に対する新たな価値観が得られました。本研修でご支援いただいた方々に深く感謝いたします。



 アメリカ
ミシガン大学



高綱 裕紀子
歯学部 口腔保健学科
口腔保健衛生学専攻
平成27年度卒業

実際に行ってみることの
大切さを感じた海外研修

私は、本学の海外研修奨励賞により、アメリカのMichigan Universityで研修させていただきました。研修先では、授業の聴講や臨床実習では実際にアシストをしながら、治療やオペの見学をしました。

今回の研修を通して、アメリカ・日本双方の良さを知ることができたとともに、全く異なる視点から日本について聞かれるので、客観的に日本の歯科医療を考える、良い機会となりました。日本から海外に発信していかなければならないことも多いと強く感じたため、今回の研修での経験をこれからの研究に繋げていきたいと思っています。

最後に貴重な機会を与えてくださった本学並びに、サポートしてくださった全ての方々に、深く感謝申し上げます。



 スウェーデン
ヨーテボリ大学



渡辺 舞子
歯学部 口腔保健学科
口腔保健工学専攻 4年

海外での経験が
視野を広くする

私は海外研修奨励賞を利用して、スウェーデンのヨーテボリ大学の歯科技工学科で2週間研修させていただきました。大学で学生と共に実習を行い、スウェーデンと日本との文化の違いを感じ、そして日本とスウェーデンのそれぞれの良さに気づきました。また、大学内のクリニックを見学し、スウェーデンの医療保険の充実ぶりに驚き、また福祉政策が進んでいることも知りました。そのようなことが分かったのも、実際に自分の目でスウェーデンの実情を視察することができたからだと思います。

これからは、海外研修で学んだことを活かして勉学に励みたいと思います。今回このような貴重な経験をさせていただき、深く感謝しております。



 タイ
チュラロンコン大学



柿沼 都
医学部 保健衛生学科
検査技術学専攻 4年

日本との違いから臨床検査技師の
存在意義を考える

タイのチュラロンコン大学で、附属病院の見学や、講義の聴講、研究室における実験の体験、観光など、刺激的な16日間を過ごしました。タイと日本では臨床検査技師の業務が少し異なることや、研究室で「伝統の薬草の効用を医学的に証明」、「大流行したHIVの新しい検査法」などのタイならではのテーマで実験を行っていたことから、技師に求められる能力や研究内容は違いますが、国民の健康に臨床検査の視点から携わることに誇りとやり甲斐を持っている点は共通していると感じました。そして「海外にも同じ志を持つ仲間がいる」という気づきは、日々の勉学のモチベーションとなりました。忘れ難い経験をさせていただいたことに感謝申し上げます。



 イギリス
オックスフォード大学



小林 万理恵
歯学部 歯学科 6年

視点を世界へ
オックスフォードの
仲間たちと

このたびUniversity of Oxford, St John's Collegeの研究室にて、新生児低酸素脳症への有効な治療法の評価・研究に携わりました。広い視野を持つ多国籍なメンバーと議論をするたび、自分は社会のために何ができるだろうかと深く考えました。8世紀以上にわたりアカデミズムをリードしてきた大学都市で出会う、学問・研究・人々・文化。その全てが「こんなにも学問や人間は面白い」と、自分の興味を目覚めさせてくれたと感じます。

私の研究留学をたくさんの方が支えてくださいました。「海外研修って、どういうものなのだろう」という方、ぜひその好奇心を大切になさってください。いつか皆さんが世界へ向けての一歩を踏み出される日を、心より応援しております。



平成27年度 海外派遣実績数

		総人数	学年別					国別
			2年	3年	4年	5年	6年	
医学部	医学科	42	0	0	25	2	15	アメリカ11・オーストラリア10・イギリス6・韓国3・タイ3・カナダ2・台湾2 カンボジア・フィリピン・シンガポール・スペイン・フランス各1
	保健衛生学科 看護学専攻	17	7	9	1	-	-	フィンランド12・ネパール3・ラオス2
	保健衛生学科 検査技術学専攻	8	2	6	0	-	-	タイ3・ラオス3・フィンランド1・ネパール1
歯学部	歯学科	38	0	11	7	7	13	ベトナム10・オーストラリア7・タイ6・アメリカ5・インドネシア5・イギリス3・カナダ2
	口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	5	0	0	5	-	-	ベトナム4・アメリカ1
	口腔保健学科 口腔保健工学専攻	18	17	1	0	-	-	台湾17・スウェーデン1

医学／医療分野におけるグローバルリーダーを育成する

成熟した国家である日本が、主要先進国として、生命科学研究・国際保健／医療政策・医療産業分野において世界を支え牽引していくため、その中心的役割を担い、グローバルな舞台上でリーダーとして活躍し、変革を生み出すことのできる人材を育成します。

ゴール設定

Global Communication Workshop

グローバルなキャリア実現にむけてのゴールセッティング

新入生を対象として毎年春に開催している、国際保健問題事例を用いた英語模擬交渉ワークショップです。

本ワークショップを通じて、将来グローバルに活躍する際に求められる資質を認識し、将来を見据えたゴール設定を行っていただくのが最大の目的です。



各交渉テーブルを、協力くださる外国人大学院留学生も含めた数名が囲み、それぞれ異なる役割を担い、英語で交渉にあたります。



本ワークショップは自由参加ですが、本学が提供する海外留学およびHSLP応募の際には本ワークショップ参加歴が必須要件であり、毎年約150名、新入生の実に半数以上が参加しています。



キャリア形成支援

ロールモデル発見

ネットワーク形成

コミュニティ形成

“Find-Your-Role-Model” Sessions

目指す分野で活躍するロールモデルに出会うために

医学／医療の分野においてグローバルな舞台上で活躍する本学卒業生やリーダーの方々と、本学在学学生／教職員との交流イベントです。刺激を受け、実例からリーダーシップを学び、よきロールモデルを得て、今後のキャリア形成に活かしていただくことを目的としたセッションシリーズです。



Discussion Café

人種・文化・分野を超えた、幅広い視点とネットワークの獲得のために

本学および国内外の提携校などから、人種、文化的背景、学んでいる専門分野、将来目指すフィールドを異とする様々な学生が一同に介し、複雑な国際保健問題の解決に向けて英語で徹底的に議論する、そして彼らとの人種／文化／分野を超えた交流を通して将来のグローバルリーダーのネットワークを築く・・・ Discussion Caféはそんな機会を提供します。



スキルアップ

Soft Skills Workshops

世界を舞台にリーダーとして活躍する人材に必要なスキルとは

日本人が特に苦手とされる論理的思考力、批判的思考力、創造的思考力、コミュニケーションスキル、そしてプレゼンテーションスキルなどの「ソフト・スキル」の獲得と洗練を、効果的・効率的に行うための機会を、2日間のワークショップ形式で提供しています。



Academic English Course

短期集中特訓で英語運用力向上とTOEFLスコアアップを

毎年、春／夏に、学士／修士／博士全課程学生を対象とした、英語運用力向上／TOEFLスコアアップを目的とした短期特訓コースを開講しています。英語を母語とする外国人教員／講師が、学生それぞれのレベルに合わせて指導にあたります。



必修科目 Global Communication

必修科目における英語運用力／批判的思考力強化

必修科目においても、英語の語学力アップだけでなく、医療／健康領域の語彙やトピックへの理解を深めるとともに、コミュニケーションスキル、批判的思考力、論理的思考力、プレゼンテーションスキル、グローバルな視野の獲得などを到達目標に含めた教育を行っています。英語を母語とする教員や外国人大学院留学生が指導にあたります。



海外留学

留学前準備教育

ASSERT Course

最先端の研究に挑むためのスキルアップを目指して

研究留学が予定されている学生を対象とした完全英語履修のプログラムで、他国の学生と切磋琢磨できるよう、論理的思考力、批判的思考力、コミュニケーションスキルを洗練し、グローバルな視点を養成することを目標とした短期特訓を行います。



FOCUS Course

世界トップ大学での臨床実習で輝くために

臨床留学が予定されている医学科学生を対象とした完全英語履修のプログラムで、世界トップ大学の医学生と切磋琢磨しながら充実した有意義な臨床実習を行えるよう、臨床スキル・患者管理スキル・コミュニケーションスキルを徹底的に磨くことを目標とした長期特訓プログラムです。



BRIDgE Course

充実した海外歯科研修のためのスキルアップを目指して

海外での歯科研修に派遣が予定されている学生を対象とした、英語で学ぶ短期特訓プログラムです。研修を充実したものとするべく、必要となる英語力（歯科英語）やコミュニケーションスキル、マインドセットの修得を支援します。



HsLP 真のグローバルリーダー育成プログラム Health Sciences Leadership Program (HSLP)

HSLPは、生命科学研究・国際保健／医療政策・医療産業分野において世界を牽引する人材の育成を目的とした、完全英語履修の複数年にわたるリーダー養成選抜プログラムであり、本学学士課程グローバル人材育成の旗艦的取組です。HSLPでは、高い志をもつメンバー（全学科対象、各学年20～30人程度）が切磋琢磨しながらともに学び、グローバルリーダーに必要なとされるスキルの獲得／洗練と、学年／世代を超えたコミュニティの形成を図ります。

どんな人材の育成を目指すのか

- 生命科学研究に従事し世界最先端の研究を行うとともに、当該研究分野におけるリーダー／フロントランナーとしてその発展に貢献する人材
- 高い専門的背景を持った上で国際保健／医療政策決定機関に従事し、中心的役割を果たす人材
- 高い専門的背景を持った上で医療産業に従事し、同産業を世界規模で牽引する人材

グローバルリーダーに必要とされるスキルの獲得／洗練

・医学知識および関連社会科学知識とその応用・統合力

・ソフトスキル

- ・コミュニケーションスキル
- ・ロジカルシンキングスキル
- ・クリティカルシンキングスキル
- ・クリエイティブシンキングスキル
- ・チームビルディングスキル
- ・マネジメントスキル
- ・リーダーシップスキル



学年／世代を超えたコミュニティの形成

医学／医療分野のグローバルリーダーへの道のりは、とても長く、孤独で、明確な目標／ビジョンを常に見据えて、長期的視点から日々の研鑽を積み重ねる必要があります。HSLPでは、同級生や先輩／後輩、卒業生や在野のリーダー達、HSLP教員からなる、同じ目標に向かって頑張っている有志達によるコミュニティのメンバーとして、お互いに刺激し、支え合い、目標達成に向けて共に成長していきます。このコミュニティこそが、HSLPで学ぶ者にとっての大きな推進力であり、そして最大の財産なのです。

カリキュラム

HSLPでの学習は、第1学年後期から学士課程修了まで渡ります。規定された「修了までに獲得すべき資質」を、学習レベルに応じて段階的に獲得していくスパイラルカリキュラムとなっており、特に下級学年では、将来直面するであろう問題を想定したケースを用いてグループで主体的に問題解決にあたる「ケースメソッド」を用います。またその間、「修了までに獲得すべき資質」に含まれる一部のスキル（批判的思考力、デザイン思考スキルなど）についてのワークショップ形式の集中的学習機会も豊富に用意しています。また、HSLP修了のためには海外留学経験（研究実習、臨床実習、公衆衛生大学院など）が必須であり、上級学年では下級学年学生のグループ学習にチューターとして参加し、海外留学を経て得た広い視野と深い考察のもとづく助言などを通して、ロールモデルとして、下級学年学生を刺激し、議論を深めます。



HSLP履修生の声

八尾 健太

医学部 医学科4年 HSLP第1期生

大学では自らの選択でどんなことにも挑戦できます。その自由な時間を生かして、将来につながる“自分のやりたいこと”を見つけるのはとても難しいことです。

HSLPでは志高い仲間と切磋琢磨することで、決して受け身の学習では得られないスキルを手に入れることができます。私は医学研究で活躍するというキャリアビジョン実現のために、この刺激的なプログラムを通して得られる経験が将来に役立つと信じています。



廣光 映南

医学部 医学科3年 HSLP第2期生

高い志をもつ人間性豊かな仲間と刺激し合える環境が、HSLPの一番の魅力です。HSLPでの学年学科を超えたコミュニティは、各人がスキルを発揮する緊張感の漂う空間であると同時に、私達にとって唯一無二の居場所となっています。臨床・研究の分野は問わず、キャリアビジョンを追求する過程自体を有意義なものにしてくれるプログラムだと思います。国内外で通用する医療者になるために、これからも真摯に学んでいきたいです。



試験の種類

東京医科歯科大学では「一般入試」と「特別入試」を行っています。「一般入試」は、大学入試センター試験と分離分割方式（前期日程・後期日程）で行われる個別学力検査を実施します。「特別入試」は、大学入試センター試験を課す医学部医学科のみで行われる地域特別枠推薦入試（茨城県枠及び長野県枠）と大学入試センター試験を課さない医学部保健衛生学科で行われる推薦入試と全学部学科対象の私費外国人留学生特別入試があります。

その他に、学士編入学試験（医学科2年次）、3年次編入学試験（口腔保健学科口腔保健衛生学専攻）、2年次編入学試験（口腔保健学科口腔保健工学専攻）があります。

入試日程

- 大学入試センター試験
平成29年1月14日(土)～15日(日)
- 一般入試前期日程試験
平成29年2月25日(土)／26日(日)
合格発表…3月8日(水)
- 一般入試後期日程試験
平成29年3月12日(日)／13日(月)
合格発表…3月22日(水)

一般入試・推薦入試

	募集人員	前期日程	後期日程	推薦入試
医学科	101名	82名	15名	4名
保健衛生学科 看護学専攻	55名	35名	—	20名
保健衛生学科 検査技術学専攻	35名	30名	—	5名
歯学科	53名	38名	15名	—
口腔保健学科 口腔保健衛生学専攻	22名	22名	—	—
口腔保健学科 口腔保健工学専攻	10名	10名	—	—

学部入試方法の変更について

本学は、「幅広い教養と豊かな感性を備えた人間性の涵養を目指す」、「自己問題提起、自己問題解決型の創造力豊かな人材を養成する」、「国際感覚と国際競争力に優れる人材を養成する」を教育理念とし、本学において教育を受けるにふさわしい求める学生像を各学科・専攻において定めています。

また、本学は文部科学省による大学の国際競争力を高める支援事業スーパーグローバル大学創成支援（タイプA：トップ型）に採択され、「TMDU型グローバルヘルス推進人材育成構想：地球規模での健康レベル向上への挑戦」を推進し、国際的に活躍する人材の育成により一層の力を入れて取り組んでいます。

このような動きの中で、高大接続改革の一環として、学長主導により入試改善を重要な課題と位置づけ、求める学生像（アドミッションポリシー）によりふさわしい選抜方法の在り方について検討を進めてきました。

その結果、本学で学びたいという強い意欲、医療・医歯学・生命科学領域に対する強い関心、国際感覚に優れた高い志を持った多様な学生を国内のみならず海外からも受け入れるために、選抜方法・尺度を多元化し、基本となる一般入試（前期日程及び後期日程）を維持しつつ、これらに加えて特別選抜Ⅰ（推薦入試・国際バカロレア入試）及び特別選抜Ⅱ（帰国生入試）を平成30年度入試から導入することといたしました。

なお、詳細な出願要件や選抜方法等については、決定次第、速やかに本学ホームページ（<http://www.tmd.ac.jp/>）に掲載いたします。

平成28年度 入学者選抜実施結果

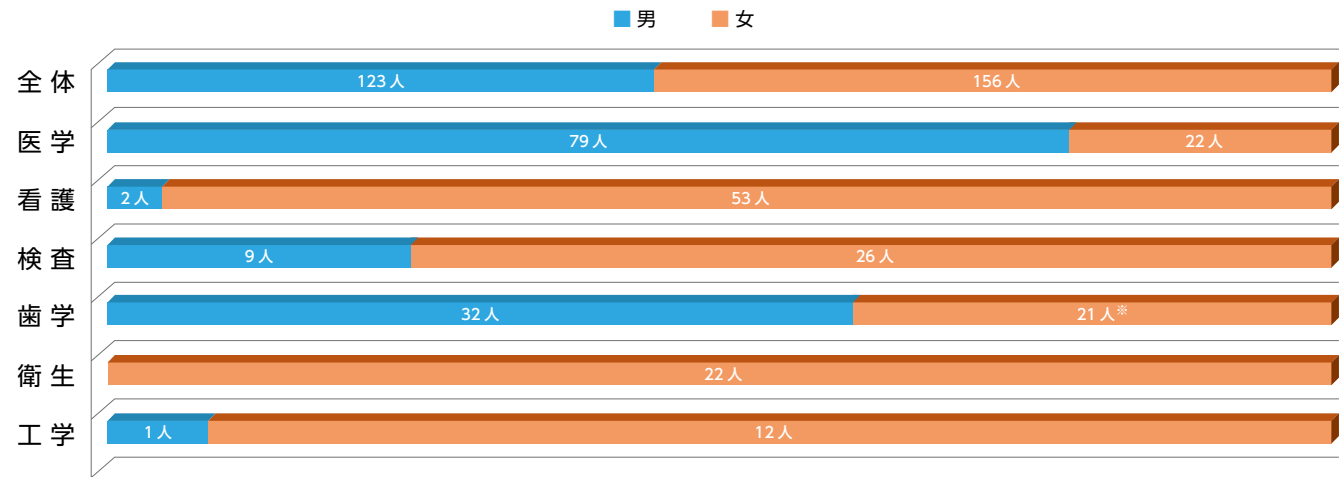
学部・学科・専攻				選抜区分		募集人員	志願者数	志願倍率	受験者数	合格者数	入学者数	
医学部	医学科		一般入試	前期試験		82	396 114	4.8	315 84	91 15	82 14	
				後期試験		15	202 63	13.5	27 11	19 9	15 8	
			特別入試	地域特別 枠推薦	茨城県枠	2	6 2	3.0	6 2	2 0	2 0	
					長野県枠	2	10 6	5.0	8 4	2 0	2 0	
			医学科 計				101	614 185	6.1	356 101	114 24	101 22
	保健衛生学科		看護学専攻	一般入試	前期試験		35	83 79	2.4	78 75	39 38	35 34
				特別入試	推薦入試		20	60 58	3.0	60 58	20 19	20 19
				看護学専攻 計				55	143 137	2.6	138 133	59 57
			検査技術学専攻	一般入試	前期試験		30	94 73	3.1	86 66	35 26	30 22
				特別入試	推薦入試		5	16 15	3.2	16 15	5 4	5 4
				検査技術学専攻 計				35	110 88	3.1	102 81	40 30
			保健衛生学科 計				90	253 225	2.8	240 214	99 87	90 79
	医学部 計					191	867 410	4.5	596 315	213 111	191 101	
歯学部		歯学科		一般入試	前期日程		38	159 65	4.2	149 57	45 14	37 10
					後期日程		15	81 44	5.4	41 20	17 11	15 10
				歯学科 計				53	240 109	4.5	190 77	62 25
		口腔保健学科	衛生学専攻	一般入試	前期日程		22	53 51	2.4	51 49	29 28	22 22
			工学専攻	一般入試	前期日程		10	26 19	2.6	25 19	14 13	13 12
			口腔保健学科 計				32	79 70	2.5	76 68	43 41	35 34
		歯学部 計				85	319 179	3.8	266 145	105 66	87 54	
前期日程 合計					217	811 401	3.7	704 350	253 134	219 114		
後期日程 合計					30	283 107	9.4	68 31	36 20	30 18		
推薦入試 合計					29	92 81	3.2	90 79	29 23	29 23		
1年次 総合計					276	1,186 589	4.3	862 460	318 177	278 155		

※上の表中下段の数字は、女子を内数で示す。
※合格者数には、追加合格者も含む

男女別&地方別入学者数

男女別入学者数

入学者全体では女子の方が多く、学科、専攻別に見ると、医学科及び歯学科は男子、その他の学科、専攻については、女子の人数が多くなっています。

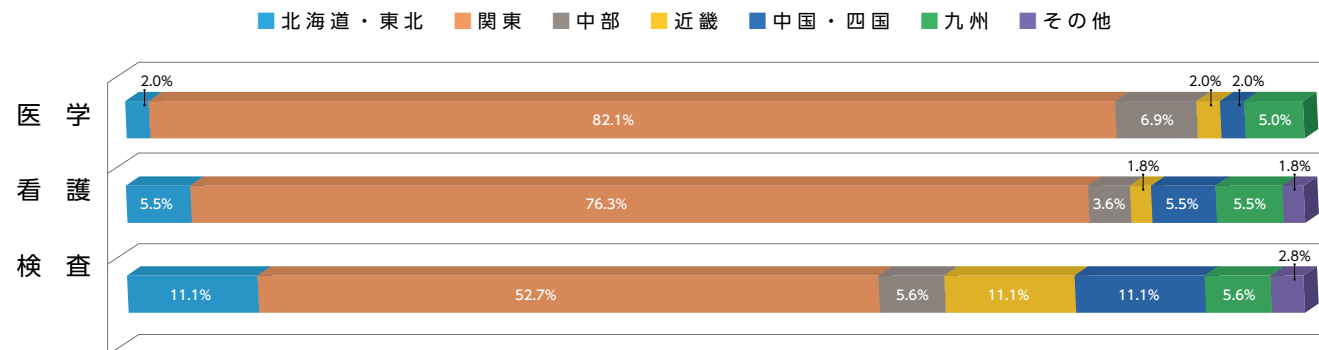


※私費外国人留学生1名を含む

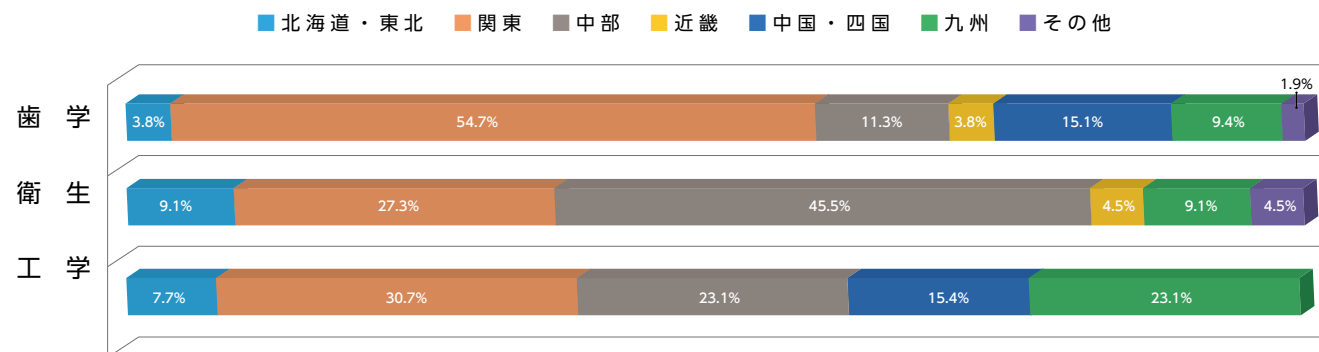
出身高等学校等所在地別入学率

医学科、保健衛生学科、歯学科では、半数以上が関東出身者ですが、口腔保健学科については、関東以外からの入学者も目立っています。

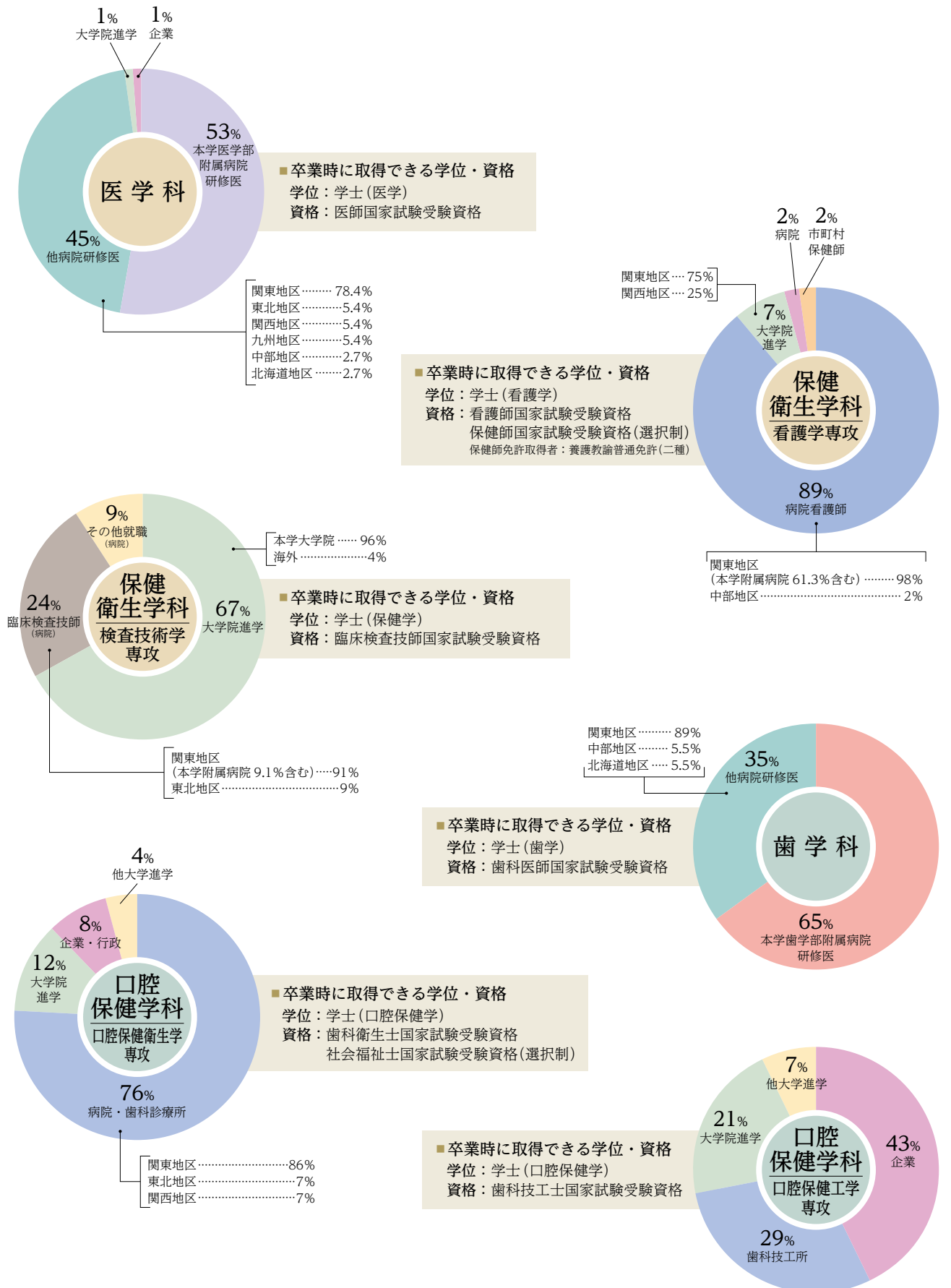
医学部



歯学部



卒業後の進路 (平成27年度卒業生)



募集要項等の請求方法

資料の請求は、下のいずれかの方法をご利用ください。

パソコンでの請求方法

本学のホームページ(<http://www.tmd.ac.jp/>) にアクセスし、トップページにある「入学案内」をクリックし、左側にあるQRコード「学部・大学院入試関連資料請求」を選び、ご希望の方法により資料を請求してください。



携帯電話・スマートフォンでの請求方法

テレメールまたはモバっちょのサイトから請求してください。
(QRコードをご利用ください。)



自動音声応答電話で請求する

下の電話番号に電話していただき、音声ガイダンスにしたがって、必要な資料の資料請求番号を入力してください。

IP 電話 050 - 8601 - 0101(24時間受付)

資料名	資料請求番号
平成 29 年度入学者選抜要項	582420
平成 29 年度地域特別枠推薦入試(医学部医学科) 学生募集要項	568530
平成 29 年度推薦入試(医学部保健衛生学科) 学生募集要項	582410
平成 29 年度私費外国人留学生特別入試学生募集要項	542420
平成 29 年度一般入試学生募集要項	582400

※一般入試学生募集要項(願書) は 11 月下旬に受付予定です。

キャンパス見学

キャンパス見学をご希望される方は、下の方法にてお申込みください。

キャンパス見学申込み方法

本学のホームページ (<http://www.tmd.ac.jp/>) にアクセスし、トップページにある「入学案内」をクリックし、右側にある「キャンパスの見学について」を選び、注意事項をよくお読みの上、メールにてお申込みください。



平成27年12月24日(木)に、
本学のM&Dタワーが巨大クリスマスツリーになりました。

このイベントは、本学を社会の方々に知っていただくことを目的に、
大学教職員が各部屋の照明やブラインドを手動で切り替えることで、
特別な経費をかけずに実施されるユニークな取り組みです。